週刊 YEAR BOOK

1920
大正9年

日録20世紀

10|6
平成10年10月6日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第37号 通巻80号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

「宮中某重大事件」!

“シベリア出兵”が生んだ惨劇「尼港事件」
最高潮「普選運動」と原敬内閣の陰謀
大リーグの汚点!「ブラックソックス事件」

「皇太子妃候補に〝色盲遺伝〟の可能性」長州閥の総帥・山県有朋を失脚させた「宮中某重大事件」の暗闘!

▼大正8年6月、婚約成立当時の久邇宮一家。後列中央が邦彦王と俔子妃。前列中央の良子女王は、6人兄妹の3番目で長女。この翌年、「宮中某重大事件」が起きる。

毎日新聞社

大正九年から一〇年にかけて、「宮中某重大事件」が政界を揺るがした。皇太子裕仁親王の婚約をめぐる争いは、薩長両派の対立、宮中での勢力争いなどとからんで、大きな波紋を引き起こしたのである。長州閥最大の実力者で、この一件を利用して絶大な権勢を宮中にまで広げようとしていると非難された元老・山県有朋には、宮中や世間の反感が一身に集まり、窮地に追いつめられることになる。

婚約後に問題にされた皇太子妃候補の〝資質〟

大正九年五月一五日、元老で枢密院議長の山県有朋(八二)は、宮中で開かれた皇室会議の後、同じく元老の西園寺公望(七〇)、松方正義(八五)と一堂に会し、困惑した表情を見せた。皇太子裕仁親王(二〇)の妃に内定している久邇宮良子女王(一七)が、色盲の遺伝因子を持っている可能性がある、というのである。皇太子と良子女王の婚約は、すでに大正六年暮れに内定し、大正八年六月には正式な婚約が成立していた。

山県がこの話を耳にしたのは、この年

▶婚約時代の皇太子。事件が落着した大正一〇年春に訪欧、洋風のスタイルを身につけられた。

▲東京・芝の写真館で極秘に撮られた、皇太子との〝お見合い写真〟。大正6年、良子女王は学習院女学部中学科在学中の14歳だった。翌年1月18日、婚約内定が発表される。

◎表紙　皇太子との婚約発表時の久邇宮良子女王(現・皇太后)。お気に入りの帽子は、当時のトップモードだった。

▲大正10年4月4日、日比谷大神宮での杉浦重剛(右から二人目)と頭山満(その左)。頭山は2月12日の新聞紙上に談話を寄せ、杉浦をたたえるとともに、山県の辞職を強く迫った。

の春、担当医である平井政遒前日本赤十字社病院長からだったと言われる。もとはと言えば、騒動は学習院で行われた体格検査で、良子女王の兄・久邇宮朝融（一九）の色弱が発覚したのが発端だった。緘口令が敷かれたにもかかわらず、噂はただちに広まり、山県の耳にも達した。

三元老の結論は、とりあえず専門医の診断を待つ、というもの。

編成された専門医グループはこの年一一月一一日になって、良子女王の祖母で、旧薩摩藩主の島津忠義公爵の側室・寿満子が色弱であること、良子女王自身に色覚異常はないが、色覚異常の遺伝子を保有している確率は五分五分であること、皇太子と良子女王の間の男の子、つまり皇位継承者に色覚異常者が生まれる確率が五〇％だと報告する。

これを皮切りに、宮中と政界を巻きこんだ一大争闘劇が繰り広げられることになった。背景には、大正天皇が幼時に患った脳膜炎の影響で、この頃、執務に支障をきたしているという事情もあった。

山県は「皇統は至神至聖たるべし、たとえ微細なる瑕疵といえども、未然にこれを知りて、知らざるをよそおうは臣下の分にあらず」、つまり「純潔論」の立場から、久邇宮家みずから婚約を辞退すべきと主張する。

さらに久邇宮家が旧薩摩藩と婚姻関係にあることも、ことを複雑にしていた。長州閥の実力者である山県にとって、薩摩系の良子女王が皇太子妃になることは薩摩閥の勢力伸張につながる。まして、剛直な軍人である良子女王の父・久邇宮邦彦王（五四）は、皇室会議の席上、皇室財宝の処置をめぐる「皇室典範」の改正問題で、山県と衝突する一件も起こしていた。山県は、邦彦王を嫌い抜いていたのである。

対する久邇宮家の反論は、「いったん決定した以上、軽々しく変更すべきでない。そんなことをすれば忠良な忠民の信念に悪影響を与えかねない」、しかも、皇太子妃にという打診があった時、専門医が診察して、結婚にさしつかえなしと認めたではないか、というものだった。

そしてなおも辞退を迫る山県らに対し、邦彦王は、「婚約解消などしたら、娘・良子を刺してから、加えられた屈辱のために自分も切腹する」とまで言い放つ。各方面に働きかけを開始した彼は、大正九年の一一月二六日には皇后に拝謁し、異例の直訴におよんだほどだった。

暗殺の噂まで飛んだ〝反山県〟派の包囲網

山県らが久邇宮家に婚約辞退を迫っているとの話を聞き、一人の男が立ちあがった。東宮御用掛として皇太子に帝王学を、婚約以降の良子女王に皇后学を講義していた杉浦重剛（六五）である。

大正九年秋、この一件を知った杉浦は、「一些事たる色盲遺伝を口実としてにわかに破約をすれば、皇室は尊厳と信望を失う」と、「人倫論」を主張して久邇宮家を支持。入江為守侍従長、浜尾新東宮大夫、東郷平八郎元帥、右翼の巨頭・頭山満らに働きかけた。それに加え、島津家による元首相の山本権兵衛、内相・床次竹二郎ら薩摩派に対する工作も功を奏し、元老・松方正義など薩摩派の重鎮が〝反山県〟で結束。これに大隈重信元首相までが久邇宮側に同調するにおよび、

「皇太子妃候補に〝色盲遺伝〟の可能性」
長州閥の総帥・山県有朋を失脚させた
「宮中某重大事件」の暗闘！

山県の敗北が明らかになっていく。「山県は朝敵」「長州の陰謀」などの見出しが躍る怪文書も飛びかったが、中には、課題となっていた皇太子のヨーロッパ外遊問題と婚約問題を結びつけ、「山県の陰謀で、皇太子の不在の間に、婚約も白紙に戻すのではないか」というものまであった。さらに、翌大正一〇年の二月に入ると、過激分子による山県暗殺の噂まで飛び出すありさまだったのである。

こうしたすったもんだのすえ、大正一〇年二月一〇日、宮内省は「良子女王殿下東宮妃御内定の事に関し世上種々の噂ありやに聞くも、右御決定は何等変更なし」と、異例のコメントを発表。

この時点まで、お妃候補をめぐる騒動は、内務省が報道を禁じていたため、庶民に知らされることはなかった。

「山県が敗北する過程で、注目すべき役割をはたしたのは、頭山満や内田良平らの右翼浪人でした。彼らは大正一〇年二月一一日の紀元節に国民祈願式をあげて、騒ぎを広げようと画策します。あせった宮内省は、前日にコメントを発表して事態を収拾、山県一派は惨敗します。宮内大臣も、山県腹心の中村雄次郎から薩派の牧野伸顕に代わりました。この事件は、右翼が天皇の悪臣、いわゆる〝君側の奸〟を清めようとする攻撃のはしりでした」

と語るのは、横浜市立大学名誉教授の今井清一氏である。

これが、世に「宮中某重大事件」と言われた一件の顛末である。

皇太子と良子女王の結婚は、大正一三年一月二六日に行われた。みずから口火を切った問題で完敗した山県は、いっさいの官職・栄位からの辞意を表明（大正一〇年三月二一日）。その心情を、「ここちのうちの苦しさは、言の葉もなし」と歌に託した。そして、大正一一年二月一日、皇太子のご成婚を見ることもなく、小田原の私邸「古稀庵」で八三年の生涯を閉じる。約五〇年にわたって天皇を輔弼し、元老政治の体現者でもあった〝鬼将軍〟の、あまりにも淋しい最期だった。

◀大正一〇年六月、山県有朋の最後の写真。山県の辞表は五月一八日に却下されたが、威信は地に落ちた。

お妃教育と杉浦重剛

大正7年4月13日、麹町一番町の久邇宮邸内の学問所で、後閑菊野元東京女高師（現・お茶の水女子大学）教授を教育主任とする、良子女王への5年間にわたる〝お妃教育〟が開始された。講義内容は、「倫理」「作法」「国語」「歴史」「地理」「漢文」「作文」「フランス語」「科学」「音楽」「体操」「美術史」「社会事業」など。料理や裁縫、生け花、ダンスといったお稽古ごとにも専門の講師がつき、授業は朝の9時から夕方近くまでだった。この中で、「倫理」を担当したのが当時、皇太子に帝王学を進講していた杉浦重剛だった。

英国留学経験がある博学の士で、気骨あふれる人物だった杉浦は、「宮中某重大事件」では、皇太子と良子女王の結婚のために奔走。その疲れからか、事件が一件落着した直後、病床についた。良子女王は、お内裏様とお姫様の一対の紙雛の絵を描いて、師の病床に贈ったという。杉浦は、二人の婚儀が終わるのを無事見届けると、大正13年2月13日に永眠。享年70。遺言は、「国家の前途を気遣うばかりじゃ」だった。

良子女王御筆の雛人形

◀「東京日日新聞」に掲載された、良子女王直筆の雛人形。

毎日新聞社

▲飯野吉三郎。〝穏田の行者〟と呼ばれた怪人物。山県、下田らを介して、「宮中某重大事件」でも暗躍した。

▲下田歌子。元宮中女官で女子教育の先達だが、飯野吉三郎とのスキャンダルを取りざたされた。

日本軍・居留民が降伏、俘虜一二二人も虐殺 〝シベリア出兵〟続行の口実とされた 惨劇「尼港事件」の真実！

▲大正9年3月12日、ニコラエフスクでパルチザン軍と停戦中だった日本軍守備隊が奇襲を敢行、ほぼ全滅し降伏する。写真は第29野戦郵便局の焼け跡。　毎日新聞社（見開き全点）

大正七年に開始された「シベリア出兵」は、その前年に起きたロシア革命に対する連合国の軍事干渉であり、日本は他国が撤兵した後も駐兵を続け、反革命政権樹立に狂奔した。大正九年三月と五月に、アムール川河口の町・ニコラエフスクで起こった惨劇の原因は、こうした干渉戦争の中で増幅されたロシア側の反日意識にあった。

投降勧告軍使の処刑が「尼港事件」の引き金に

大正九年一月二八日、トリアピチン（二三）が指揮するパルチザン軍（ソビエト政府正規軍ではなく民兵部隊）は、樺太の対岸にあるアムール川（黒竜江）河口の町・ニコラエフスク（尼港）郊外のチヌイラフ要塞から日本軍を駆逐すると、市街への砲撃を開始した。共産党員ではないが無政府主義共産主義者を自称するトリアピチンは、ユダヤ系ロシア人で、帝政時代はペテルブルグの金属工だった。

ニコラエフスク解放を目的として川ぞいに北上した部隊は、道中で農民や鉱山労働者などを味方につけながら勢力を増し、一月末には総勢約二〇〇〇人という大部隊になっていた。

ニコラエフスクは北洋漁業の重要拠点で、人口約一万二〇〇〇人。内訳はロシア人八七〇〇人、日本人一二〇〇人（うち朝鮮人九〇〇人）、中国人二三〇〇人で、島田商会という水産工場が、私紙幣を発行するほど力があった。

革命勢力に対するニコラエフスクの白衛軍は、投降者が続出し、この町の防衛戦の主役は日本軍守備隊であった。日本軍は、一月一一日からパルチザン軍と交戦を開始していたが、激しい風雪の中をパルチザン軍が、スキーを自在に操って行動するのに対し、移動時がソリ、戦闘中は徒歩で、苦戦が続いていた。

一月二四日にパルチザン軍の使者が投降を勧告しにきたのを、石川正雅守備隊長は拒否し、身柄を白衛軍に引き渡したため、二人の軍使は白衛軍に殺されてしまう。軍使の処刑を簡単に許した石川の狭量さが、この年三月の「尼港事件」の引き金となったのである。

「裏切りものと日本人を早くやっつけろ」

「我々がこの土地の主人だ」

そんな叫びが、パルチザン軍の中で高まった。サケ・マスの乱獲で内戦期に経済支配を行った日本の漁業資本家への反発心、明治三八年の日本軍による樺太島南部住民虐殺など、この地域の住民には日本人に対して恐怖と沈潜した敵意があった。まさに一触即発だったのである。

二月二八日、パルチザン軍主導の講和条約が日本軍との間で締結され、軍事行動が停止された。二九日、市民に迎えられて市内に入ったトリアピチンは、以下のような演説をした。

「ハバロフスク、ウラジオストクの両市では、依然として反革命勢力が有産者・日本軍との協調という裏切り政策をとっており、彼らを一掃しなければならない」

パルチザン軍が白衛軍将校、資本家ら四〇〇人以上を逮捕し、革命法廷の審理の後に数十人を銃殺したのはこの直後のことである。日本軍幹部は憤慨し、次は自分たちの順番だとおそれおののいたに違いない。石川は三月七日、トリアピチンに詰問するが、内政問題ととりあってもらえなかった。援軍を求めるにも、通信基地はおさえられているし、氷結したアムール川は航行困難であった。

事件を反共宣伝に使い〝干渉〟を継続した日本

日本軍は、三月一二日午前一時三〇分、パルチザン本部を急襲する。本部は火炎に包まれ、トリアピチンは手榴弾で負傷したが、戦闘員三四二人という日本軍と四〇〇〇人近くに膨れあがったパルチザン軍では戦いにならなかった。

居留民を保護するべき石田虎松副領事はみずから領事館に放火し、妻子を道連れに、三宅駸五海軍少佐と刺し違えた。

◀降伏勧告の軍使を殺害されたパルチザン軍の報復により、惨殺された日本兵。手足を針金でしばられていた。

▶日本人俘虜の獄舎の壁に残されていた〝絶筆〟。死刑宣告の日時を記したもの、と推察された。

女たちの肖像

原因は須磨子の「嫌がらせ」舞台から映画女優第一号へ名花・酒井米子の〝有為転変〟

稲葉真弓

この年、映画界に画期的な出来事があった。松竹蒲田、大正活映など各映画会社が次々と女優を採用、日活向島撮影所も一〇月、酒井米子（二一）ら三人を女優として迎え入れ、米子は日本の映画史上初の女優として華やかなスタートを切った。が、彼女は、無垢な素人女優ではなかった。すでに舞台で蓄積された経験があり、一時は松井須磨子と競い合うほどの実力派。須磨子の名声の陰に隠れて、舞台では脚光をあびなかったが、映画によって妖艶な魅力が花開いたのである。

明治三一年、東京・神田に裕福な魚問屋の娘として生まれた彼女は、父親の死後、貧乏のどん底にあった。一一歳の春、東京俳優養成所の第一期生の試演会を見て舞台の魅力にとりつかれ、幹部の田中栄三を訪ね女優志願。四三年、井上正夫の新時代劇協会に所属し、バーナード・ショーの「馬盗坊」で娘役を演じ初舞台を踏んだ。この時、彼女は電車賃もなく、母親と住んでいた小石川の家から丸ノ内の劇場まで毎日歩いてかよったという。翌年、協会は解散。その後、土曜劇場、吾声会などで舞台に立ち、芸術座入りをはたすが、須磨子の嫌がらせやイジメを受け、一ヵ月で退団という憂き目にあった。

ついには生活がたちゆかなくなり、芸者に出ていた姉をたよって、花柳界デビュー。元女優の転身はたちまち劇界や文士の間で話題になり、売れっ子芸者になった。

この芸者時代、彼女は市川猿之助の弟・市川松尾や東本願寺法主の大谷光演と浮き名を流し、光演との間に女児を出産。そんな彼女を映画界に引っぱり出したのは、芸術座にいた小村光雄だった。デビュー作は「朝日さす前」。一時は松竹蒲田に移籍したが、また日活に戻り「鞍馬天狗」「鳴門秘帖」「忠臣蔵」などに出演、日活の名花、姐御スター、バンプ女優と呼ばれ大人気を博した。この全盛時代、息子の欣也（後に監督）をもうけたが、相手とはすぐに別れ、時代劇女優ナンバーワンの地位を守る。昭和七年、日活の不況により退社すると、「酒井米子一座」を旗揚げし、各地を巡演した。

戦後は映画界を退き、北海道・旭川市内でキャバレーを経営。昭和三〇年、溝口健二監督の「新平家物語」に台詞のない役で出たのが最後の女優姿となった。三三年、六〇歳で死去。枕元には、華やかなりし頃の新聞記事の切り抜きが残されていたという。

▲尾上松之助らの相手役として活躍。

勝者・敗者

品川遊廓からも黄色い声援 旧東海道を四校学生が走る 第一回箱根駅伝スタート！

阿部珠樹

日本のスポーツとは何か、を外国人に理解させるには、箱根駅伝を見せるのが手っ取り早い。個人を犠牲にしてまで全体に奉仕させる独特のチームワーク、一区間約二〇キロの長距離なのに途中給水さえ認めない奇妙な精神主義、日本選手権でも、大学選手権でもないただの関東ローカルの大会なのに、沿道には一五〇万人もの見物客が押しかけ、熱狂する。たしかに箱根駅伝は面白い。

第一回箱根駅伝が行われたのは、大正九年二月一四日。しかし、駅伝という日本独特のスポーツが生まれたのはもっと早く、読売新聞社が大正六年、「東海道五十三次駅伝徒歩競走」（京都―東京間）と銘うった大会を開催したのが始まりである。まるで飛脚のように、長距離をたすきでつなぐこのレースは、日本人の感覚にフィットしたようで、大会の直後には「駅伝競走」というタイトルの映画が封切られたりしている。

こうした駅伝熱を受けて始まったのが箱根駅伝だった。正式名称は「東都大学専門学校東京・箱根間往復一三〇マイル駅伝競走」。主催したのは報知新聞社だった。

長い名称とは対照的に、第一回大会の参加校は、早稲田、慶応、明治、東京高等師範のわずか四校。区間は現在と同じ一〇区間だった。

道路網の整備されていない時代のこと、コースは旧東海道が使われた。車もほとんど走っていない土ぼこりの道を、足袋姿の学生がたすきがけで駆ける姿は、近代スポーツと言うよりは、弥次喜多道中に近いものがあった。

参加者の回想によると、途中の品川宿にはまだ遊廓が残っており、疾走する学生に、白塗りのお姉さんたちがさかんに声援を送ったという。

優勝したのは東京高等師範。明治四五年のストックホルム・オリンピックに出場した金栗四三の母校であり、長距離走の名門だった。優勝タイムは一五時間五分一六秒。現在の優勝チームは一一時間を切るか切らないかで還ってくるから、いかにのんびりしたものだったかわかる。第一回の参加者たちは、全員鬼籍に入っている。

「月刊陸上競技」提供

▲優勝した東京高師チーム。最終区で明治を逆転した。

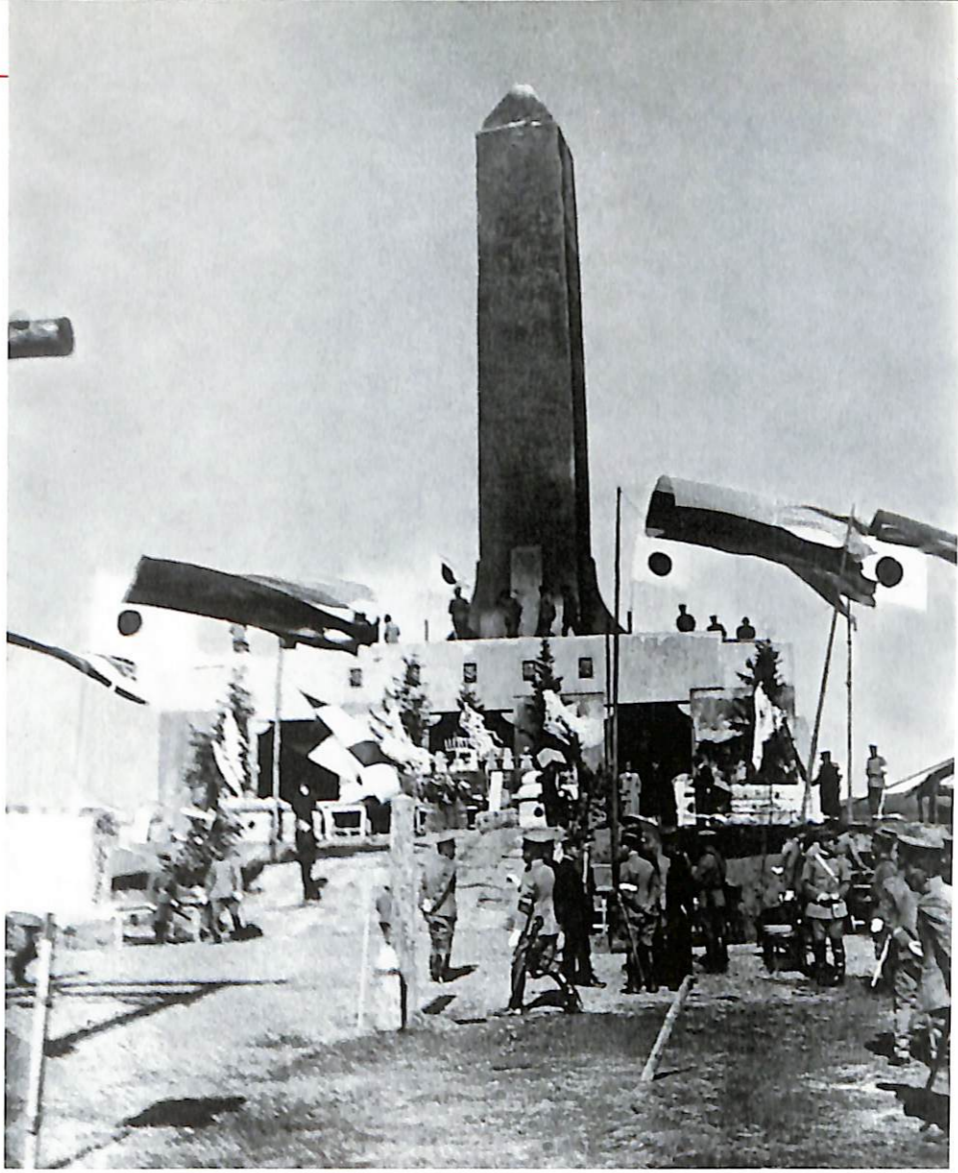
◀「尼港事件」犠牲者の遺骨を祀った忠魂碑。ニコラエフスクから後に北樺太のアレクサンドロフスクへ、さらに小樽市に移された。

毎日新聞社

戦闘は実質二日で終わり、日本軍は降伏し、残存する兵士と居留民一二二人は俘虜として収監された。

カムチャツカの日本領事館発の打電を外務省が受けたのは三月二九日、新聞は「過激派と我軍の衝突　我軍の損害多くニコラエフスクの我領事館は焼かれ副領事石田虎松氏は生死不明」（『大阪朝日新聞』三月二九日夕刊）などの大見出しで事件を取り上げ、「尼港の惨劇」の悲報は全国を駆けめぐった。奇襲の結果の自爆的全滅とは知らず、国民はパルチザンによる日本軍および在留民七〇〇人近くの惨殺事件だと憤激した。

原敬内閣は四月六日の閣議で、ニコラエフスク救援隊の出動を審議し、小樽に待機中だった派遣隊に対して、まず北樺太に上陸した後に機を見てニコラエフスクに発進すべしという指示を与えた。二〇〇〇人の部隊は一八日に軍艦「見島」「三笠」の護衛のもとに出発、二二日、公式の占領宣言を出さずに北樺太を占領した。そして日本軍は、パルチザンの重要参考人としてサハリン島革命委員会議長のツァプコほか数人を連行し、拷問のうえ、海中に投棄する。

五月の解氷期を迎え、日本軍のニコラエフスク再占領が避けられない情勢になると、トリアピチンとそのとりまきは、勝ち目がないと判断し、〝狂気のテロル〟を展開した。犠牲者は三〇〇〇人とも樺太住民の半数の五〇〇〇人とも言われる。獄舎にいた日本人俘虜も惨殺された。パルチザン軍は六月一日、市街に火を放った。救援隊が伝える現地の酸鼻をきわめた状況を、新聞は大々的に報道した。

「凶悪言語に絶する尼港の過激派／邦人百二十名を鏖殺す」（「大阪朝日」六月七日）

次いで、従軍記者のよりセンセーショナルな記事が、紙面を埋め尽くした。

「荒寥たる焼野原に千秋の怨みを遺す我が同胞」（「大阪朝日」六月一七日）

トリアピチンらは、七月三日、ボルシェビキの軍事革命本部によって逮捕され、公開人民裁判の決定で銃殺刑が執行された。二日後、ウラジオストクの共産党沿海州協議会は、トリアピチンらは党とは無縁の冒険主義者であることを内外にアピールした。しかし日本にとって、この事件は干渉政策を継続するかっこうの材料であった。

「政府は過激派＝ボルシェビキという反共宣伝材料に使うと同時に、北樺太占領の口実としたのです」（細谷千博・国際大学日米関係研究所特別顧問）

そして、シベリアにおける日本の武力干渉は、大正一一年秋に撤兵を完了するまで続くのである。

▲日本軍守備隊が居留民保護を名目に入市した頃の、ニコラエフスク。市街は事件で灰燼に帰した。

▶パルチザン軍幹部たち。中央白衣の人物が司令官・トリアピチン。その左の女性は参謀長のニーナ。

「写真通信」

1月

AP／WWP

「太陽」

▲米国の徳冨蘆花と野口米次郎（1月31日）蘆花（51）は在ニューヨーク日本人会で講演。前列中央の蘆花夫妻は、前年1月からの世界周遊旅行中で3月に帰国。英語詩人として著名な野口は後列左。

◀米「禁酒法時代」に突入（1月17日）憲法を修正して全国的な禁酒法が施行され、酒の製造・販売・輸出入が禁止に。しかし密売によるアル・カポネなどギャングの隆盛をもたらし1933年禁酒法は撤廃。

▶新議院、地鎮祭（1月30日）第1回帝国議会以来、東京・日比谷の仮議事堂しかなかったが、ようやく現在の議事堂が着工へ。永田町の約2万坪の敷地内で、地鎮祭を挙行。完成は昭和11年。

▼国際連盟、成立（1月10日）大戦の惨禍から、初の平和維持機構が生まれ、42ヵ国が参加。提唱者・ウィルソンの米国は、孤立主義の台頭で議会が加盟拒否。写真はジュネーブの第1回総会。

「写真通信」

▶「森戸事件」起こる（1月14日）「経済学研究」に発表したクロポトキン研究が、危険思想とみなされて東京帝大助教授・森戸辰男（31）が起訴された。禁固2月の有罪判決。

「イリュストラシオン」

▶両国国技館、再建（1月15日）明治42年に始まる初代国技館が、大正6年に失火焼失。工費130万円をかけ、収容人員約2万人、日本最大の興行場が完成し、開館式が行われた。

大正9年1月

1（木）●博文館、「新青年」「少年少女譚海」を創刊。●米・英で、ロシア革命の恐怖から赤狩り旋風。
2（金）●北京政府、日貨排斥禁止を発令。
3（土）●米プロ野球選手のベーブ・ルース、年俸二万ドルでヤンキースと契約。
4（日）●神奈川県相模紡績の女工八〇〇人、辞職者への同情スト（6日、強制就業）。
5（月）●ロシア赤軍、イルクーツク占領（西シベリアのオムスク反革命政府、事実上崩壊）。
6（火）●平塚らいてうら、新婦人協会初打ち合わせ会。
7（水）●文部省、字形統一など漢字整理案を公表。
8（木）●ウラジオストクの米軍司令官、シベリアからの米軍撤兵を大井成元司令官に通告。
9（金）●園池製作所の職工二六〇人、八時間労働制、組長選挙制など要求のスト（26日、妥結）。
10（土）●国際連盟、ベルサイユ条約が発効して成立。●森戸辰男東京帝大助教授、論文問題（13日休職処分、14日起訴、3月有罪判決。森戸事件）。
11（日）●在京の台湾人留学生、新民会を結成。
12（月）●高女校長などの東京府特別講演会、主婦の仕事多すぎ過労、生活改善が必要と。
13（火）●松井慶四郎を平和条約実施委員長に任命。
14（水）●千葉県富津で火災、強風で三二七戸延焼。
15（木）●国技館、東京・両国に再建され開館式。
16（金）●連合国最高会議、オランダ亡命の前独皇帝の引き渡しを要求（オランダ、信義上拒否）。
17（土）●米国、禁酒法（憲法第一八修正）施行。
18（日）●大阪で労働団体など二万人、普選要求デモ。
19（月）●初の横断歩道、電車横断線を東京の江東橋―錦糸堀間に設置。
20（火）●堺・山川共編『マルクス伝』など、叢書刊行。
21（水）●生糸相場高騰（一俵四三五〇円）。
22（木）●本年度予算案（約一三億円）、衆議院に提出。
23（金）●広東軍政府、山東問題交渉に反対。
24（土）●愛媛県婦人連合大会、開催（一五〇〇人参加）。
25（日）●生活改善同盟会、内務・文部両省推進で設立。
26（月）●長崎市石炭港仲仕三〇〇〇人、賃上げスト。
27（火）●山脇玄、貴族院で婦人参政権など質問演説。
28（水）●日本軍、ウラジオストクに上陸開始。
29（木）●全国で流感猛威、一家七人死亡も、と新聞に。
30（金）●国会議事堂、起工の地鎮祭に一〇〇〇人参列。
31（土）●全国普選連合会、四三の団体で結成。●北京の学生、北京政府の弾圧と山東問題の日中直接交渉に反対の抗議デモ。

ニュース・ファイル 1920

フォト＋日録で再現する366日

この年の二月、普選実施を求める運動は最高潮に達し、東京では数万の民衆がデモ行進。五月二日の日曜日には、日本で初めてのメーデーが上野公園で開かれ、一万人が参加した。しかし、第一次大戦中からの過剰生産が原因で、一転、戦後恐慌、大不況が日本を襲う。

◀高島屋呉服店が「安売りデー」（2月21日）織物が暴落の気配を見せた時、京橋 南伝馬町の東京店で3日間の特別セールを行った。開店と同時に客が殺到し、警察官が出動。初日だけで売り上げ6万円の新記録。

毎日新聞社

▲**水谷八重子・夏川静江（静枝）の「青い鳥」大好評（2月11日）**東京・有楽座の新劇協会第1回公演に出演。写真左がチルチルの水谷(14)、右が夏川(10)のミチル。

◀**「バスガール」発車（2月2日）**前年開業の東京市街自動車が、37人を採用。青バスに制服の大きな白襟がよく映え、女性の新しい職業として注目された。

「写真通信」

▼**日本銀行また小額公債売り出し（2月13日）**全国郵便局を窓口に、前年から5回目。「シベリア出兵」の費用になっているとの野党の批判をよそに、人気を集めた。

「写真タイムス」

▲**赤軍、猛攻（2月22日）**デニーキン将軍率いる白軍が、仏・ギリシャなどの増援むなしく惨敗し、27日には拠点・ウクライナも陥落。写真は、指揮官・トロツキーを従え演説するレーニン。

西日本新聞社

▲**八幡製鉄大争議（2月5日）**浅倉健三率いる労友会系の職工約1万3000人が、待遇改善を求めて罷業を宣言、3月2日までデモと弾圧で大荒れになった。

▶**原敬、衆院解散（2月26日）**普選運動が盛り上がる中、法案審議中に突然、解散の詔勅。総選挙では、小選挙区制で政友会が圧勝。写真は、解散直前の国会前。

「写真通信」

大正9年2月

1（日）●神戸市、屎尿処理を市営に。
2（月）●初の女性車掌、東京市街自動車に乗務。
3（火）●日本工業倶楽部、総合課税・超過累進課税などの所得税法改正案に修正を要望。
4（水）●川崎大師の豆撒きに十数万人の人出、人に踏まれて圧死一人、負傷者多数。
5（木）●八幡製鉄所職工約一万三〇〇〇人、待遇改善要求スト（24日にも。4月1日、解決）。
●慶応・早稲田に私立大学設立を許可（4月15日、明治、法政、同志社など六校も）。
6（金）●中国、大総統令で学生の排日運動を禁止。
7（土）●コルチャック提督をロシア赤軍が処刑。
8（日）●ガス不足（新工場建設の遅れ）で食事の支度ができない、工場は休業状態、と新聞に。
9（月）●新婦人協会、婦人参政権の請願書を衆議院に。
10（火）●日本曹達、設立（専務・中野友礼）。
11（水）●東京で一一一団体、数万人の普選大デモ行進。
●松竹キネマ、設立（6月、蒲田撮影所完成）。
●新劇協会、東京の有楽座で「青い鳥」初演。
12（木）●東伏見宮御召し列車連結の特急に松田—下曽我間（御殿場線）で投石、寝台車の窓を割る。
13（金）●珍田駐英大使、ロンドン五大国会議に出席。
14（土）●第一回東京—箱根間往復駅伝競走。
●婦人社会問題研究会、設立研究会で与謝野晶子が「女子の社会問題研究」を講演。
15（日）●富岡謙蔵著『古鏡の研究』刊行。
●富士瓦斯紡績小名木川工場職工一二〇〇人、賃上げ要求スト（16日、押上工場で同情スト）。
16（月）●大阪市が職業紹介、身の上相談、図書室などを備えた市民会館建設を提案、と新聞に。
17（火）●東京帝大、女子の聴講生入学を許可。
18（水）●警視庁、御真影の粗略な扱いは処罰と伝達。
19（木）●長野県松本で地震、道路崩壊し電柱倒壊。
20（金）●宮内省図書寮が全焼、図書の被害はなし。
21（土）●婦人参政問題で新婦人協会、第一回演説会。
22（日）●普選問題全国連合大懇親会、東京・芝公園に三万人を集めて開催、首相官邸へデモ。
23（月）●英・リバプールに日本領事館、開館。
24（火）●ヒトラー、独労働者党（後のナチス）綱領発表。
25（水）●新文芸協会、東京・明治座で「法難」を初演。
26（木）●普選法案審議中の衆議院、解散。
27（金）●前衛映画「カリガリ博士」、ベルリンで上映。
28（土）●政友会の選挙運動費一〇〇〇万円、と新聞に。
29（日）●チェコ国民議会、共和国憲法を採択。

「イリュストラシオン」

◀**「アメリカの恋人」結婚（3月27日）**メアリー・ピックフォード(26)の相手は、ダグラス・フェアバンクス(36)。米映画界が誇るスター同士の夫妻は、前年、チャップリンらと映画製作会社設立、後に「黄金狂時代」を世に送る。

◀▼**独ワイマール共和国でカップ一揆（3月13日）**退役軍人・カップ（写真左）が、軍備削減に不満な軍隊などと結託。しかし、社会民主党が指令したゼネストと官僚の非協力で「四日天下」。下はベルリンの叛乱軍。

Ullstein／ユニフォト・プレス

ユニフォト・プレス

「写真タイムス」

▲**東京・浅草の吾妻座火事（3月1日）**大正3年、もとの浅草国技館を日活が買収、遊楽館の名で映画常設館に。7年に改築、吾妻座として松竹の演劇興行に貸されていた。

▶**「三・一運動」1周年記念（3月1日）**東京在住の朝鮮人留学生約200人が、西神田の朝鮮基督教会館で演説会。警察の解散命令に応じず日比谷に向かい、無届けの屋外集会として多数を検挙。写真はその女子7人。

「写真タイムス」

◀**矢島楫子、第10回万国矯風会大会へ出発（3月13日）**日本婦人矯風会会頭として、86歳の老身を新調のマントと頭巾に包み、ロンドンへ。万一に備えて後事いっさいを遺言。

大正9年3月

1（月）●東京株式市場、売買五五万株の新記録で活況。
2（火）●閣議、「シベリア出兵」の目的を朝鮮・満州（中国東北部）の過激派の脅威阻止に変更。
3（水）●言論機関の発達と安い食料品を求める社会現象で、印刷所とパン屋激増、と新聞に。
4（木）●東武鉄道、西新井—草加間複線化開通。
5（金）●河井道、スイス万国基督教学生大会へ出発。
6（土）●前年の欧米渡航者約六万人で激増、と新聞に。
7（日）●印刷組合の要求を入れ、雑誌は五月号から三〜一〇割の値上げ、と新聞に。
8（月）●東京市電内広告の競争入札、前回の約二倍で三年間六八万円（一両一ヵ月一二円の計算）。
9（火）●富山県伏木港女性人夫六〇〇人、賃上げ争議。
10（水）●朝鮮総督府編『朝鮮語辞典』刊行。
11（木）●パルチザン、ニコラエフスク駐留軍に武装解除要求（12日、日本軍が攻撃、敗北。5月下旬、収容中の日本人を虐殺。「尼港事件」）。
12（金）●東京女子医専、初の女子専門学校として認可。
13（土）●独退役軍人・カップが反革命クーデター（17日、失敗。カップ一揆）。
14（日）●家庭製作品奨励会、静岡市で内職見本展開催。
15（月）●株価暴落、戦後恐慌始まる。
16（火）●閣議、全国的に職業紹介所設立を決定。
17（水）●内務省、警保局に外国人対策の外事課を新設。
18（木）●床次内相、地方長官会議で選挙取締りを明示。
19（金）●米下院、国際連盟不参加を決定。
20（土）●鈴木式織機（後の鈴木自動車工業）、設立。
21（日）●朝は納豆売り、難病の父と働く母を助けて四年間無欠席の小学生、生きた教材、と新聞に。
22（月）●東京府住宅協会、五三〇戸の申込受付開始。
23（火）●片倉製糸紡績、設立。
24（水）●東京・巣鴨の障害児施設「滝野川学園」全焼。
25（木）●敬神崇祖の念を養うため関西の諸神宮参拝の東京市内の女性教師団九三人、東京駅を出発。
26（金）●一三代目守田勘弥、東京の帝国劇場で菊池寛作の「恩讐の彼方に」を初演。
27（土）●ポーランド、ソビエト・ロシアに国境承認要求。
●全国タイピスト組合、結成。
28（日）●平塚らいてう・市川房枝ら、上野・精養軒で新婦人協会発会式（10月、「女性同盟」創刊）。
29（月）●大阪砲兵工廠、最高八一円の年度末賞与支給。
30（火）●閣議、東京高商を東京商科大学に昇格決定。
31（水）●山田耕筰ら、日本作曲家協会を設立。
●早大、ロシア文学科を設置。

「写真通信」

▲**加藤総裁、政府弾劾(4月20日)** 大阪の憲政会大会で、原首相の普選つぶしの解散など悪政を指摘、党員に檄を飛ばした。しかし翌月の総選挙は惨敗する。

「写真通信」

◀**株価大暴落(4月)** 3月に続いて7日から各地取引所が休業、13日には再開(写真)されたが、翌日から再び休業。大戦景気は一転、戦後恐慌となった。

▶**初の高等学校対抗競漕(4月6日)** 隅田川に5校が参集。河岸からの熱い声援の中、予選を勝ち抜いた一高と二高が決勝戦を行い、1艇身の僅差で一高が優勝した。写真は一高と三高の予選レース。

「写真通信」

▼**ハワイの日本人労働団体が賃上げ要求デモ(4月3日)** オアフ島の砂糖耕地で働く日本人の日給は77セント。らちのあかない交渉に、とうとう同盟スト、デモ行進。

「写真通信」

▲**陸軍少佐・東久邇宮稔彦(32)、フランスへ出発(4月19日)** 仏国陸軍大学へ留学のため、前夜東京駅から列車に乗り、この日の朝、神戸着。仏船で出帆(写真左端)。7年間帰国せず、問題となった。

▶**ムスタファ・ケマル、臨時政府大統領に(4月23日)** アンカラにトルコ大国民議会を召集、第1次世界大戦での敗北によってスルタン政府が認めた植民地化を否定、新政府樹立を宣言(写真右)。

「イリュストラシオン」

大正9年4月

1(木) ●逓信省、六大都市の均一電話料を度数制に。●印刷局、紙幣製造女工の裸体検査を廃止。●米軍、ウラジオストク撤兵を完了。
2(金) ●米国・シカゴで鉄道労働者スト(全米に拡大)。
3(土) ●法政、大学昇格とともに文学部新設を決定。
4(日) ●日本軍、ウラジオストク占領。
5(月) ●東京市電値上げ決定(6月から片道八銭)。
6(火) ●シベリアのチタでロシア共産党主導の緩衝国である極東共和国、樹立宣言。
7(水) ●株価暴落、各地の株式取引所一二日まで休業。
8(木) ●小菅(現・伊勢丹)、民間飛行家・後藤勇吉に委嘱し初の空中広告を行う。
9(金) ●伊で開催の国際海員労働会議政府代表に内田嘉吉、松岡均平が決定。
10(土) ●日銀、財界救済の非常貸し出しを声明。
11(日) ●日本軍、北部満州・ハイラルでチェコ軍と衝突(ハイラル事件。13日、チェコ軍を武装解除)。
12(月) ●縮緬の本場、京都・奥丹後地方の機屋九五〇戸、織工一万人の半分以上が休業、と新聞に。
13(火) ●商品相場も暴落(東京米穀・大阪三品取引所は15日から、横浜生糸は16日から休業)。
14(水) ●織元の町、八王子も火が消えたよう、と新聞に。
15(木) ●日大、各科の専門部に初めて女子の入学許可。
16(金) ●栃木伊藤銀行、支払い停止(同様な銀行続出)。
17(土) ●芸妓花代値上げに貸席組合大反対、と新聞に。
18(日) ●東久邇宮、仏陸軍留学のため東京駅を出発。
19(月) ●連合国最高会議、伊のサンレモで開催(各国の委任統治領を決定)。
20(火) ●日銀、製糖会社に救済融資決定(続いて製鉄、産銅、絹織物、製糸、毛織物の各業種にも)。●大正活動写真(大活)、設立。
21(水) ●内務省、マッサージ営業の免許制など公布。
22(木) ●「尼港事件」救援隊、北樺太に上陸。
23(金) ●アンカラにトルコ臨時政府、樹立。
24(土) ●米国の民間救済使節団、二五人が来日。
25(日) ●東京市電の交通労組員一五〇〇人、待遇改善要求スト(解雇三〇〇人、組合敗北)。●ポーランド軍、ウクライナ領に侵攻。
26(月) ●政府、中国に山東問題交渉の促進を勧告。
27(火) ●農商務省、綿糸輸出制限令適用緩和を通達。
28(水) ●梨本宮方子、李王世子・李垠と結婚。
29(木) ●日本軍、沿海州臨時政府と停戦協定。
30(金) ●上野警察署、増加する上京青年のため人事相談の案内板を駅構内に設置。

証言・あの日この日
武者小路実篤(35)

6月2日(水) 〈赤ちゃんはまだか知らん、もうこのハガキがつく迄には生れてゐること丶思ふ、幸福を祈る。君は急がしいこと丶思ふがついでのあり次第先日話した内1500yen前後都合のい丶数だけ送つてほしい。/困つてゐる〉(武者小路実篤『武者小路実篤全集』第18巻)

宮崎県に「新しき村」を建設中の武者小路実篤は、この頃、資金不足に悩まされ、毎日の生活資金にも困るありさまだった。いろいろ工夫を試みるが、なかなか資金不足は解消されない。この日も、旧友・志賀直哉に緊急の借金催促のはがきを書く。そして、入れ違いに直哉からもはがきが届き、実篤は早速2枚目のはがきを書く。〈正直な処くらしの方に金が少しゐるので矢張り皆で5000以上君の云つてくれたゞけ送つてもらうことにしたい〉。5000円とはかなりの大金である。 (山崎行太郎)

「写真通信」

「イリュストラシオン」

◀**ローマー東京間飛行に成功(5月31日)** イタリア人飛行家のフェラリン、マシェロ両中尉操縦のスパ210馬力2機が、世界初、2万キロの長距離飛行を達成。大阪経由で東京・代々木練兵場に到着。

▲**アントワープ五輪へ選手団出発(5月14日)** 8月の開会をめざし選手ら14人が横浜港を出発、米国経由でベルギーに向かった。写真・後列右から二人目がマラソンで期待された金栗四三。

▶**第1回メーデー開催(5月2日)** 1886年に米労働団体が8時間労働制を要求し、デモを行ったのが起源。その国際的行事が日本へ。在京18団体、1万人が上野で集会。

「イリュストラシオン」

▲**ポーランド軍、ウクライナへ侵攻(4月25日)** 国家元首・ピウスツキ(写真右)が反ロシア親ドイツ政策を実施。赤軍を敗走させたが、反攻にあい、結局、休戦協定へ。

▶**茂木商店倒産(5月24日)** 生糸に始まり多角経営に成功した横浜の大貿易商が、機関銀行・七十四銀行ともども戦後恐慌で破綻。写真は、総帥の惣兵衛。

横浜開港資料館蔵

大正9年5月

1(土) ●生糸相場暴落、横浜取引所で立ち会い停止。
2(日) ●日本初のメーデー、東京・上野公園に一万人。
3(月) ●広島県の尾道ドックで修理中の汽船のボイラーが爆発、死者八人、重軽傷者九人。
4(火) ●東京市教育課、女性視学官の応募者なく裁縫・家事教育の企画がゆき悩む、と新聞に。
5(水) ●米国の武装強盗殺人事件で、伊移民のサッコとバンゼッティ逮捕(翌年、死刑判決)。
6(木) ●文部省、地方学務課に社会教育事務担当(社会教育主事)の特設を通牒。
7(金) ●醤油、大暴落で一時醸造停止、と新聞に。
8(土) ●オブレゴン将軍の叛乱軍、メキシコ市を占領(21日、カランサ大統領を殺害)。
9(日) ●谷崎潤一郎、少し工夫すれば映画は日本の芸術を外国に紹介する媒体になる、と新聞で。
10(月) ●第一回総選挙(政友会二七八議席で大勝)。●国産初のディーゼル漁船「第二太洋丸」初航海。
11(火) ●外務省、日米英仏の対中国新四国借款団の合意成立を発表(10月15日、規約成立)。
12(水) ●枢密院会議、国勢院設置など勅令新制定九件、内閣軍需局など廃止六二件を可決。
13(木) ●八幡製鉄、不景気で職工二万五〇〇〇人の給料一カ月分約九〇万円支払い窮す、と新聞に。
14(金) ●オリンピック選手団一四人、ベルギーへ出発。
15(土) ●鉄道院、省に昇格(初代鉄道大臣・元田肇)。
16(日) ●第一回全国実業団野球大会、兵庫県の鳴尾球場で開催。
17(月) ●全国書籍商組合連合会、創立。
18(火) ●富士身延鉄道、甲斐大島—身延間開通。
19(水) ●新渡戸稲造、国際連盟書記局社会部長に就任。
20(木) ●荏原製作所、設立(ゐのくち式機械を継承)。
21(金) ●失業保護は緊急事だが調査が杜撰、と新聞に。
22(土) ●中国、山東問題で直接交渉拒絶の覚書を提示。
23(日) ●インドネシア共産党、スマランで創立。
24(月) ●茂木商店の破綻で七十四銀行休業。
25(火) ●東京市の危険道路改修工事に三〇〇万円下賜。
26(水) ●横浜蚕糸貿易同業組合、製糸業に操短要望。
27(木) ●大阪の綿糸商、輸出綿糸組合結成。
28(金) ●大原社会問題研究所、『日本労働年鑑』刊行。●加藤一夫、宮崎竜介ら、自由人連盟発会式。
29(土) ●東京市立結核療養所、開所式。
30(日) ●伊の飛行家、初の伊日間長距離飛行に成功。
31(月) ●戦艦「陸奥」、横須賀海軍工廠で進水。一二万人の見物客、事故で死傷者一八人。

日録 20世紀1920

6月

CORBIS-BETTMANN／PPS

▶ウィンブルドンで清水善戦(6月30日)テニスの全英選手権初出場の清水善造(29)が、米国が誇る超人・チルデン(写真＝27)に挑戦。「東の国の小さな偉大なプレーヤー」とその敢闘をたたえられた。

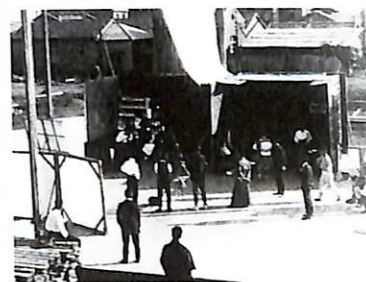
◀名古屋電鉄、車庫焼失(6月7日)運転終了後の深夜、漏電により出火。車庫内に多量の重油があったため、約1500坪の建物がたちまち火の海となり、格納していた電車91両を焼いた。

「写真通信」

「写真タイムス」

▶尼港殉難で托鉢(6月21日)ニコラエフスクで日本人捕虜が、パルチザンに惨殺されたとわかると、国内は殉難者追悼や遺族弔慰の演説会で盛り上がった。浅草観音大慈会では慰問の托鉢団が出発。

▶初の「時の記念日」(6月10日)天智天皇が漏刻(水時計)を初めて使った故事にちなんで、生活改善同盟会が主唱した時間尊重の宣伝日。東京教育博物館の「時」展覧会では、正午に鐘を鳴らした。

「写真通信」

▶松竹キネマ、蒲田撮影所オープン(6月)興行界の支配的地位を占めた松竹が、映画進出をめざし、ハリウッドからカメラマンなどを招いて本格的製作を開始。

「写真通信」

◀斎藤茂吉(38)、喀血(6月)大正6年から自分が精神科部長をつとめる県立長崎病院に入院。写真右から見舞客の土橋青村・島木赤彦と茂吉夫妻。翌年、海外留学に出発。

大正9年 6月

1(火) ●閣議、シベリアからの撤兵方針を決定。●日本漕艇協会、四大学で創立。
2(水) ●米市場暴落、一俵三三円台に(最高五二円)。
3(木) ●尼港救済派遣軍、ニコラエフスク占領。
4(金) ●ハンガリー、連合国とトリアノン講和条約に調印(領土の四分の三を失う)。
5(土) ●有島武郎著『惜みなく愛は奪ふ』刊行。
6(日) ●ジュネーブで万国婦人参政権者大会、開催。
7(月) ●名古屋電鉄車庫で火災、電車九一両を焼く。
8(火) ●上原勇作参謀総長、チタ方面からの撤兵に不満で辞表提出(却下)。
9(水) ●菊池寛、「真珠婦人」を「大阪毎日・東京日日新聞」に連載開始(通俗小説ブーム)。
10(木) ●第一回「時の記念日」。●日英同盟、無改訂で継続決定(英国も同意)。
11(金) ●中国の民衆、日清汽船「武陵丸」と湘潭出張所などで掠奪(湖南事件)。
12(土) ●ロシア赤軍、ポーランド占領のキエフを奪還。
13(日) ●友愛会紡織労働組合、東京・亀戸で発会式。
14(月) ●北海道の夕張炭坑で爆発事故、死者二〇九人。
15(火) ●マルクス著・高畠素之訳『資本論』刊行。
16(水) ●東京府、神田に中央職業紹介所を開設(この年、全国に四四ヵ所が新設)。
17(木) ●広島で県女教員大会、開催(10月福岡市、京都市、11月大阪府など、全国各地で開催)。
18(金) ●「尼港事件」に対する内閣糾弾演説会、東京・上野公園で開催。
19(土) ●連合国、ハイス・ブーローニュ会議開催(独の賠償金二六九〇億マルク、四二年年賦と決定)。
20(日) ●日本にプロ野球を組織する動き、と新聞に。
21(月) ●東京絹毛紡織沼津工場、解雇された職工三五〇人が押しかけ暴動。
22(火) ●ギリシャ、トルコのケマル軍を攻撃開始。
23(水) ●衆議院の中立議員二五人、庚申倶楽部を結成。
24(木) ●自動車の新取締り、小学校付近は徐行、電車客乗降の際は停止、と新聞に。
25(金) ●日本興業銀行、日興證券を設立。
26(土) ●総経費七〇〇〇万円、一〇年計画で東京帝大の研究機関を充実、と新聞に。
27(日) ●全国商業会議所、改正所得税法延期を要請。
28(月) ●東京の銭湯業者、水道値上げで市議会に抗議。
29(火) ●第四三回特別議会召集(7月1日、開会)。
30(水) ●ウィンブルドンテニスで清水善造、優勝した米国のチルデン選手に善戦。

「現場」を歩く 上野

「埋め立て反対」が残した不忍池保護の"ゴスト"

山本徹美

▲周辺に高層の建物がふえた現在の上野・不忍池。大都会に残された、鵜の繁殖地としても貴重である。 但馬一憲

大正九年六月二八日、東京市会は上野公園を内務省からもらい受ける決定を下した。「読売新聞」(同月二九日)が、田尻稲次郎市長の談話を載せている。

「我輩の意見として云へば最も処分に困るのは不忍池である、池は埋立てるならば埋ても差支ないとも思へる、其の訳は池へ流れ込む藍染川の水が腐りかけてゐるから埋ることは衛生的でもある」

田尻市長の発言にあるように、不忍池には、根津、動坂あたりから水田や工場の排水などを集めた藍染川が注ぎ、あふれた水は南東にある忍川から下谷の三味線堀を経て、隅田川へと注いでいた。不忍池の汚染はかなり酷かったようだ。

「藍染川の汚水が流れ入るので、不忍池もいはば大きな下水貯留所の観があつて、(中略)夏の夜頃は異臭鼻を衝いて、衛生上看過すべからざる有害瓦斯が発生」(「東京朝日新聞」同年六月一六日)

上下水道、衛生、運輸交通と、今でいうインフラ整備を公約に掲げた田尻市長にしてみれば、汚染された不忍池など埋め立てて「住宅地に」と、なる。が、折しもその前月には赤坂・弁慶橋の取り壊しをめぐって世論が猛反発、六月七日の市会では調査委員会も反対したばかり。当然、学者や政界から埋め立て反対の声があがる。そこへガス料金値上げ反対運動、道路工事汚職と公約とは裏腹の事態が相次ぎ、田尻市長は同年一一月、辞職。不忍池埋め立て案は自然消滅した。

再々、埋め立ての危機に

不忍池を訪ねてみた。池は三分割されていて、南側の「水上音楽堂」に面しているのが「蓮池」、西は半月形の「ボート池」、北が「鵜の池」という。どこも野鳥が多く、パン屑をユリカモメやバンなどに与えていた老婦人から、懐旧談を聞く。

「敗戦直後の昭和二一年頃、蓮池は水を抜いて埋め立て、稲を植えたんです。『上野田圃』と呼んでいました。その後、プロ野球の方で球場にしたいと言ってきたけど、私たちは猛反対しました」

再度浮上した不忍池埋め立て案は昭和二四年一二月、東京都議会本会議へ上程するかどうか検討されたが、意見がまとまらず見送りに。水田部分は浚渫して、元の蓮池が復活する運びとなった。同三一年、都市公園法が制定。公園は転用や壊滅行為から排除され、「公的施設」として保護、運営されるようになった。とはいえ、不忍池の悪臭問題が解決したわけではない。腐った蓮の葉や野鳥の糞が池の底に堆積するのがおもな原因である。

「浚渫工事は定期的に行っています。平成八年から二年間、約三億円かけ蓮池を浄化しました。藍染川は昭和初期に埋められ、"水源"はJR、京成電鉄から供給される一日二〇〇〇トンの地下湧水とポンプによる専用井戸水の汲み上げ、後は雨水がたよりです」(東京都公園緑地課)

約一〇万平方メートルの広大な池も人工的に管理されている。都市の自然は住人が庭師の感覚で大切に守らなくては破壊されると、この池が教えている気がする。

毎日新聞社

▲大正後期から昭和初め頃の不忍池。水源だった藍染川は、関東大震災の復興事業で埋められた。

日本近代文学館提供(3点とも)

▲「新青年」創刊号(博文館、30銭)

▲「苦の世界」(聚英閣、2円)

▶「惜みなく愛は奪ふ」(叢文閣、1円30銭)

ベストセラー
若者向け総合誌「新青年」"世界改造"を掲げ創刊!

この年一月、若者向けの総合誌「新青年」が創刊された。巻頭で、読者たる青年に向けて「国際連盟よ/世界改造の声は潮のごとく/極東のわが日本の岸辺を打ち/われら青年の血を湧かしむ」といった檄が飛ばされた。そして巻末に「次の戦争」と題する特別附録を組み、「世界政策と日米の衝突」「経済上より見たる日米戦争」など時代の動きを直接反映させた論文を、陸海軍の幹部が執筆した。一方で、若者向けの雑誌らしく、「長篇小説・日米戦争未来記」や「米国海軍勢力一覧表」といった興味本位の記事もつけ加えられていた。フィクションでは、長編の探偵小説「白骨の謎」(保篠龍緒)やSFの色濃い科学小説「世界の終り」(桐野馨花)、歴史小説「三浦按針」(池田大伍)など、ワールドワイドなストーリーが展開され、若い読者を引きつけたのである。

同じ年の六月、有島武郎の『惜みなく愛は奪ふ』が、著作集の第一一集として刊行された。「私は澱みに来た、而して暫く渦紋を描いた。私は再び流れ出よう。私はまづ、愛を出発点として芸術を考へて見る」という一節を記すなど、有島武郎哲学の集大成とも言える一巻だった。同時に、その刊行方法として、「書冊の形でする私の創作感想等の発表はこの"著作集"のみに依ること、します。私の生活を投入するものはこの集の外にありません」と言い切った。

また、時代がどのような動きを見せようとも、そこからまぬがれることができない浮き世の苦しみを、リアルに描いた宇野浩二の『苦の世界』が刊行され評判を呼んだ。自分の母親と、芸者屋から逃げ出してきた女と一緒に暮らす無名の画家が、女の強烈なヒステリーに悩まされる日々を淡々と描いており、むしろユーモアさえ感じられる小説だった。

スターと名場面
谷崎潤一郎が映画製作に本腰 義妹・葉山三千子もデビュー!

この頃になると、エンターテインメントとしての映画製作が本格的になってきた。芝居を写し撮るという発想は影をひそめ、映画独自の世界が展開されようとしていた。芝居の松竹がこの年、松竹キネマを創設し、あわせて東京・蒲田に撮影所を設けて映画製作に乗り出したのも大きな動きだった。その蒲田撮影所で「島の女」(木村錦花監督)を撮影、公開したのが松竹第一回作品だった。この製作にあたって、松竹は映画のノウハウを導入しようと、アメリカ映画界の第一線で活躍していた日本人カメラマン・ヘンリー小谷を招き、スタッフに加えた。

ほかでも、アメリカの映画人を活用する動きが目立った。谷崎潤一郎(原作)が、アメリカ帰りのトーマス栗原(監督)とのコンビで作った作品「アマチュア倶楽部」(製作=大活)も、この年に製作、公開されている。この作品からは谷崎潤一郎の義理の妹にあたる葉山三千子がデビューし、そのエキゾチックな容姿で人気女優になっている。

また谷崎がかねてから映画に適していると考えていた泉鏡花作品の映画化も、谷崎みずからの脚色とトーマス栗原の監督で実現した。「葛飾砂子」(大活)がそれで、谷崎にとっては大きな意義を持つ映画となった。

▲「島の女」では、川田芳子(左)がヒロインとして登場した。

▲「葛飾砂子」でヒロイン役を演じた人気女優・上山珊瑚(下)と中尾鉄郎。

▲「アマチュア倶楽部」でデビューし、人気女優となった葉山三千子。

モノ語り'20
"日本人向き"の創意をこらして定着! 「一山式眼鏡」、ハンドカメラ「アイデアA」、睡眠薬「ブロヴァリン」

▶輸入ガスストーブが登場　この頃、輸入品として日本に登場したものに、「英国製1Gガスストーブ」がある。ストーブの前面に設置された耐火粘土製のチューブを熱し、その放射熱で室内を暖める構造で、「お客様の帰る時に漸く暖くなる様な炭火とは雲泥の差」の暖房効率が売りだったが、デザインも洒落たものが多かった。写真のもので、定価55円だった。
がす資料館提供

◀ハンディタイプのカメラ　この頃、ハンドカメラと呼ばれたタイプのカメラ「アイデアA」が、小西本店(現・コニカ)から発売された。三脚を使用せずに、手に持って撮影できるところに大きな特徴があった。感光材は手札判の乾板で、レンズやシャッターは外国製。小西本店は、この頃、「アイデア」という名の数多くの国産カメラを製造・販売していた。
日本カメラ博物館蔵/大畑俊男

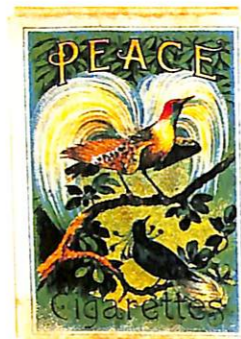
▼洗濯石鹸が使われるようになってきた　この頃、販売されていた洗濯用の石鹸は、魚油臭があるなどの欠陥を抱えていた。これを改良し市場を獲得したのが、ライオン石鹸(現・ライオン)の「植物性ライオン洗濯石鹸」で、発売当初は無包装の裸棒状石鹸だったが、後に、写真のような商品名の入ったパッケージがほどこされて販売されるようになった。発売当初(無包装・棒状)の価格は、並型が20銭、大型40銭だった。　ライオン史料センター蔵/奥村健太郎

▲日本人向きの眼鏡に人気　両眼のレンズをはさむ部分が直線的だったのを、鼻の低い日本人向けに湾曲を持たせた「一山式眼鏡」が、この頃にはすっかり定着した。眼鏡の上辺ではなく、ほぼ中心部が湾曲しているので、鼻にしっかりかかって実用的だった。
めがねの博物館蔵/平山亮

ようやく普及し始めた洗濯石鹸

この頃、一般家庭では、灰汁やサイカチ(マメ科の落葉高木)のサヤを煎じた汁が洗剤として用いられることが多かった。石鹸は、もっぱら洗顔用のものと、とらえられていたのである。価格も、高価な印象をまぬがれなかった。しかし、次第にその効果が認められるようになり、また同時に洗濯板が普及して、大正も末頃からようやく、洗濯板に洗い物をのせ、そこに洗濯石鹸をこすりつける洗い方が一般的になってきたのである。

棒状の洗濯石鹸を売りこむこの広告では、まだ洗濯板は描かれていない。

たばこと塩の博物館提供

◀平和への願いが反映したタバコ　第1次世界大戦の終息を記念して、専売局(現・日本たばこ産業)は、平和への願いを直接反映させた「ピース」を発売した。両切りタイプで、10本入り小箱が25銭、50本入り丸缶ラベルが1円25銭だった。現在販売されている「ピース」とは、まったく別のタバコである。

▶副作用のない睡眠薬が売れた　当時評判のよかったドイツ製の催眠鎮静剤「ブロムラール」を国産化した「ブロヴァリン」(後に「ブロバリン」と改名)が、日本新薬から大正4年に発売されて、この頃には、胃腸障害のない鎮静剤、習慣性の少ない催眠剤として売り上げを伸ばしていた。輸入品が品切れとなっていた状況も、有利に働いた。写真は、昭和4年頃に発売されていたもの。

澤田正二郎（二八）
“殺陣師段平”とのコンビで剣劇「国定忠治」大当たり！

◀新国劇きわめつきの名狂言「国定忠治」の澤田正二郎。小松原決闘の壮絶な立ち回りは、劇界に新風を巻き起こした。

前年八月の初演から絶賛を博した新国劇の「国定忠治」は、大正九年に入っても人気は衰えず、大阪・道頓堀の弁天座を中心に上演され盛況をきわめた。そして七月には、舞台を浪花座に移して「井伊大老の死」を上演、連日大入りとなり、澤田正二郎（二八）が主宰する新国劇は新たな時期を迎えたのである。

「国定忠治」が絶賛をあびた理由は、市川段平の斬新な殺陣と、新国劇の創立者で忠治を演じる澤田正二郎の、リアルでテンポの速い演技にあった。“殺陣師段平”の名で知られる市川段平は、もとは歌舞伎役者で、軽業師的なトンボが得意だった。当時、澤田の新国劇は大阪松竹の専属で、社長の白井松次郎（四二）が、段平を新国劇の頭取兼殺陣師として送りこんでいた。この段平の殺陣に澤田が命を吹きこみ、壮絶な剣劇の舞台を生み出していったのである。

澤田正二郎は、明治二五年五月二七日、滋賀県大津市生まれ。育ったのは東京で、開成中学（現・開成高校）五年のもう卒業もまもない時、ふらりと出かけた浅草で見た芝居が、演劇に興味を持つきっかけになった。俳優になろうと決めたのは、小山内薫の自由劇場の試演を見た時である。

明治四二年、早稲田大学文科高等予科に入学。坪内逍遙の知遇を得て、在学中から演劇の世界に飛びこみ、翌四三年、逍遙が主宰する文芸協会の第二期生となった。しかし、澤田の本格的な舞台への登場は、大正二年の文芸協会分裂によってできた芸術座に所属してからである。

島村抱月を主宰者とする芸術座は、翻訳劇を主体に、松井須磨子を主演女優とし、その相手役に澤田を起用した。しかし、須磨子との感情的な対立から澤田は芸術座を脱退。以降、いろいろな劇団を転々とすることになる。

澤田が新国劇を結成したのは、大正六年。四月に東京の新富座で大衆演劇を中心に旗揚げ興行を行ったが、結果は惨憺たるものだった。日夜借金取りに追いまくられる日々が続き、みじめな生活を送る澤田たちに届いたのが、京都・南座での公演の話だった。勇躍、京都に乗りこんだが、観客の不入りはあいかわらず。

そんな存亡の危機に立たされた劇団に転機をもたらしたのが、大正八年の行友李風（当時・四二歳）という座付き作者の加入だった。剣劇物を主体とした李風の作品は好評で、特に、同年四月には新しい殺陣の型を作りあげた「月形半平太」が成功、それに、八月には、以降新国劇の代表的演目となる「国定忠治」が大当たりして新国劇を隆盛に導いたのである。

関西を席巻した澤田は、大正一〇年六月、念願の東京に凱旋し、明治座での公演が実現。実戦さながらの激しい立ち回りを身上とした剣劇は、大阪だけでなく東京でも受け入れられ、新国劇の名は人々の中に定着した。

そして、新国劇の人気を絶頂に押し上げたのが、一〇年一二月、中里介山の「大菩薩峠」の上演だった。主人公・机竜之助を演じる澤田のニヒルな風貌がすさまじく、澤田は当代きっての俳優の地位を確立するのである。

澤田の演技について、新国劇の最長老である島田正吾氏はこう語る。

「それはもう、見る人に大きな魅力を感じさせるもので、これからもたくましく生きようという意欲を与えてくれるような舞台でしたね」

昭和四年三月四日、中耳炎の手術後、高熱を発した澤田は急性化膿性脳膜炎を併発、三六年の短い生涯の幕を閉じた。この突然の死に、新聞各社は号外を出し人々に澤田の死を知らせた。

◀剣劇のジャンルを打ち立てた「月形半平太」。新劇の俳優に髷物は無理との世評をくつがえした。

◀“サワショー”最大の当たり役、「大菩薩峠」の机竜之助。初演の東京・明治座を連日満員にした。

▲大正13年、東京・赤坂にあった演技座の楽屋で。この年、澤田は「国定忠治」「月形半平太」で映画にも進出、当代きっての人気俳優の名をほしいままにした。 朝日新聞社

▲1920年、ビアリッツでのシャネル。彼女の店は仕事場に60人ものお針子が働くほど繁昌し、ファッション界での名声は日ごとに高まっていた。

決定的瞬間

ココを世界に押し上げた傑作 〝シンプル〟かつ〝挑戦的〟に 香水「シャネルNo.5」誕生！

スポーティーなファッションで、ポケットに手を入れて立つガブリエル（通称・ココ）・シャネル。三七歳。場所は、フランス南西部のリゾート地・ビアリッツの海辺である。彼女のかぶっている帽子は何の飾りもなく、スカート丈は靴から二〇センチほど。くるぶしが見えるスカートは、当時としては、きわめて挑戦的なファッションであった。

一九一〇年にパリで帽子店を開いたシャネルは、従来の装飾過剰の植木鉢のような帽子を否定して、シンプルで美しい帽子をデザインし、少しずつだが新しい顧客を開拓する。一九一三年にはイギリス人実業家、アーサー・カペルの出資を得て、海辺のリゾート地・ドーヴィルに帽子店を開く、そして、第一次世界大戦のためにパリから疎開してきた上流婦人向けに、スポーティーな服を作り人気を集めた。

この当時のシャネルの服の特徴は、柔らかい素材（ジャージー）を使い、スポーティーで行動しやすいデザインを基本にしていることだった。従来の裳裾が長く一人では歩けないような「不自由な豪華さ」から、「働く女性」の美しさをめざすもので、彼女自身、当時のことを「一つのモードは終わりを告げ、もう一つのモードが生まれ出ようとしていて、その時代にわたしはいた」（『シャネル20世紀のスタイル』文化出版局）と語っている。

そして、三年後の一九一六年にはビアリッツで二番目の店を開店。カーディガン・スタイルのシャネル・スーツを創作して時代の最先端を走るようになる。

一八八三年八月一九日、ロワール河にそったソミュールという田舎町で生まれた彼女は、幼くして母を失い、悲しい青春時代を送る。しかしそうした中でも、服装に対しては独自のセンスを磨き、男物のシャツやズボンを工夫して着こなし、自分の帽子を作り、「ポケットに手を入れて」歩いていた。女性がポケットに手を入れて歩くのは時代に抵抗し、自立したいと願うサインでもあった。「将来はパリに出て自分の才能を試したい」という希望を失わなかったシャネルは、一九二〇年にはパリ・カンボン通りに婦人服の新しい店を開き、働く女性のためのデザインを次々と発表するようになる。

彼女の人生には、コクトー（詩人・作家）、ディアギレフ（ロシアバレエ団の主宰者）、ウエストミンスター侯爵（イギリスの大富豪）など、多彩な協力者が登場してくるが、彼女を〝世界のシャネル〟に押し上げる決定的な力となったのは、調香師のエルネスト・ボーとの出会いであろう。この年、一九二〇年に南仏でボーに出会ったシャネルは、さっそく自分の作る服に似合う贅沢な香水の製作を依頼した。ボーは、ジャスミン、スズラン、サンザシ、イチハツなどの花精にアンバー、ムスク、さらに天然の炭化水素から抽出したアルデヒドを加えた二系統の香水一〇種を試作。一〇種の香水は試験管に一～五、二〇～二四の番号をふり、シャネルに届けられた。シャネルはこの中から即座に、ナンバー五と二二を選んだのである。

ガラス製のシンプルな容器に入れられて翌一九二一年から売り出されたこの香水は、「寝る時には何を身につけて寝るのですか？」「『シャネル No.5』よ」というマリリン・モンローのセクシーな言葉（一九五五年）とともに、ファッション史に不滅の名声を残すことになった。

▲1920年夏、彼女の別荘があったパリ郊外のガルシュの街を、みずから提唱するスポーツ ウエアを着て歩くシャネル。右は友人の娘である。

▲香水「シャネル No.5」。デザイナーが香りをデザインした最初の作品であり、長時間香りが持続する画期的な商品だった。

▶今世紀のモード界に君臨する、パリのシャネル本店。カンボン通り三一番地にある。

吉川忠久

美の出会い

エコール・ド・パリを彩る「素晴らしく深い白地」藤田嗣治、キキを描く！

◀「寝室の裸婦キキ」。1922年。油彩、130×195センチ。藤田は、「モンパルナスの恋人」と言われたキキをモデルに何点もの絵を描いたが、1920年の作品の所在は現在不明となっている。
パリ市立近代美術館蔵

パリに住んで足かけ八年になる画家の藤田嗣治（三三）は、大正九年一〇月、パリのサロン・ドートンヌに四〇号の油彩「裸婦」を出品した。なめらかな乳白色の地塗りの上に、きわめて細い穂先の面相筆による線で描かれた裸婦像は、妖しく魅惑的な光を放っていた。批評家たちは「グラン・フォン・ブラン（素晴らしく深い白地）」と言って絶賛し、「場中の釘」、すなわち会場の〝目玉〟となったのである。

この作品は、一般入場者はもちろん、ピカソ（三八）をはじめ多くの画家たちの目を釘づけにし、その日のうちに八〇〇〇フランで売約となった。喜んだ藤田はさっそくパーティーを開き、友人たちに大盤振る舞いをした。モデルとなったキキ（一九）に大枚を握らせると、彼女は街に飛び出していって、モード雑誌から抜け出たような衣装に身を包んで戻ってきた。

この作品で使った独創的な技法について、藤田は後に自著『腕一本』の中で触れている。

「皮膚という質の軟かさ、滑らかさ、そしてカンバスそのものが既に皮膚の味を与えるような質のカンバスを考案することに着手した。第一がマチエールの問題であったが、私が輪囲を面相筆をもって日本の墨汁で油絵の上に細線をもって描いてみた。皮膚の実現、肌そのものの質を描いたのは全く私をもって最初とし、私の裸体画が他の人の裸体画と全く別扱されたことは世間の大注目を引いた」

この「裸婦」の成功により、藤田はキスリング（二九）やパスキン（三五）、ヴァン・ドンゲン（四三）ら、エコール・ド・パリのきらめく群像の中で一躍人気画家となった。

藤田が生まれたのは明治一九年。陸軍一等軍医正（後に陸軍軍医総監）・藤田嗣章の次男としてであった。幼い頃から好奇心が強く、絵を描くのが好きだった。明治四三年には東京美術学校（現・東京芸術大学）を卒業。その後、三年続けて文展に出品するが落選。そして大正二年六月、日本郵船「三島丸」で渡仏する。

パリに着いてまもなく、当地で知り合ったスペイン人に誘われて、ピカソの家を訪れた。ここでピカソの立体派の絵や税関吏のアンリ・ルソーの素朴で心にしみる絵を見せられた藤田は、大きな衝撃を受ける。日本では黒田清輝の外光派を学んだ程度で、セザンヌもゴッホも見ていなかったのである。「絵画は実にかくまで自由でなければならないのだ」と肝に銘じた藤田は、パリ在住の先輩洋画家・川島理一郎を通して、ヴァン・ドンゲン、モジリアーニ、ブラックらを紹介され、エコール・ド・パリの黄金期を歩み出すことになる。

▲キキを描く藤田。キキは藤田を「フー・フー」と呼び、気に入っていた。1953年にキキが52歳で亡くなると、藤田はエコール・ド・パリの画家としてはただ一人、葬儀に出席し、墓地まで行って埋葬の時に花を投げ入れた。

第一次世界大戦が勃発したため、藤田は一年ほどロンドンに避難するが、大正五年には再びパリに戻り、モンパルナスのドランブル通りのアパートに住みついた。三〇歳まではと約束された父からの毎月一二〇円の仕送りもとだえ、スプーンもフォークも売り飛ばして絵筆で食事をしたなどという、伝説的な貧乏暮らしが始まったのである。

大正六年、モンパルナスで知られていた女流画家のフェルナンド・バレと結婚。藤田の才能を見抜いていたフェルナンドは、夫を売り出すために献身的につとめる。その甲斐あってか、画商と契約できた藤田は、課されたノルマをこなすために、労働者のように描きまくった。この頃の絵はアンリ・ルソー風のものである。

「素晴らしく深い白地」の創造から、世界のフジタへと駆けのぼっていく姿は、いくつもの伝説的なエピソードに彩られている。しかし、藤田に対する好意と悪意の声は入り乱れて、死後三〇年経った今でもなお、正確な像を結んでいない。ひとつには第二次世界大戦中に帰国して描いた戦争画について、評価を保留されていることもあるだろう。藤田の甥で音楽評論家の蘆原英了が、身近に見た藤田について語っている。

「フジタはまめな人であった。絵を描くのは早いほうで、あっという間に一枚の絵を仕上げてしまう。フジタを見ていると、何を描こうかと主題に苦しんでいる人が、不思議に思えるほどであった。何でも眼に見えるものを画にしてしまう。それも細部から描きだして、あとからそれに加えてゆく手法である」（「藤田という人」）

20世紀博物館

日本のあかり博物館

重要有形民俗文化財がズラリ！ 松明、行灯など〝揺らぐ〟明かり道具の数々

長野・小布施町

桑原茂夫

◀たんころ・ひょうそくに明かりをつけたところ。灯心がゆっくりと燃えていくが、その炎はなかなかロマンチックだ。

江頭徹

人が作りだす明かりは、もともと揺らぐものであった。これは、もっぱら電気的な明かりの中で生活する現代人が忘れてしまいがちな事実である。

しかし「日本のあかり博物館」には、松明や篝火などの野外の明かりから、行灯や石油ランプといった類の、電気を使わない明かりの道具が数多く展示されており、明かりのもともとのありようを感じさせてくれる。

展示されているのは三〇〇点ほどだが、収蔵点数は一〇〇〇点余り。このうち九六三点が、国の重要有形民俗文化財に指定されている貴重な道具で、しかも、金箱正美さんという一個人がコレクションしたものだというから驚かされる。

この金箱さんのコレクションを一般に公開するため、昭和五七年、金箱さん自身を館長として開設されたのが、この「日本のあかり博物館」なのである。

大正二年生まれの金箱館長は、子どもの頃、骨董屋の店先にあった行灯皿に魅せられたのがきっかけで、明かりの道具のコレクションに走ったのだという。

▼多種多様な行灯。右手前に見える脚台のない箱状のものは、室内の常夜灯として用いられた「有明行灯」。

◀松脂を燃やす松明など、直接、植物の油を燃やした道具。手前には、火打ちなども展示されている。

行灯皿というのは、行灯の光源装置から落ちる灯心の燃えかすや油を受けとめる皿で、簡単な絵などは描いてあるものの、どうということのない焼き物に見える。しかし金箱館長にとっては、揺らぐ炎の痕跡を受けとめてきた愛すべき灯火用具なのだ。

ところで行灯の灯心として重宝がられたのは、畳表の素材となるイグサの髄だった。毛細管現象による油の吸い上げ効率がいいからで、金箱館長の言を借りると「それまでしなっとしていたのが、油を吸うと生き返ったようにピンとなる」のだそうだ。

この灯心に吸いこまれた油が燃えて、周囲を明るく照らし出す。行灯には和紙が張ってあるから、それがスクリーンとなって光源の明かりを面に広げ、さらに周囲の空間をほんのりと明るくする。

その行灯も多種多様で、四角い枠の角行灯から、円筒形の丸行灯、屋内の常夜灯の役目をはたしていた有明行灯、ぶら下げる形の掛け行灯、店先に吊るす看板行灯などがある。八間行灯という大きなシャンデリアを思わせる行灯もある。八間四方を照らすから、その名がついたという。五～六本の灯心を使う大型のもので、江戸時代から明治時代にかけて、大店の店先や銭湯、寄席などで用いられたと言われ、当時は「目もくらむばかりの明るさ」と表現されるほど明るく感じられる照明だったそうだ。

▼携帯用行灯の「旅枕」。いろいろな旅の小道具と一緒に、小型の折り畳み式行灯も持って歩いた。

行灯のような和紙のスクリーンつきでなく、灯心を燃やすだけの簡単な明かりの道具として「たんころ」とか「ひょうそく」と称されるものがある。ちょっとした照明なら、これで十分用はたりたのだろう。小さいながらじりじりと炎を上げ、周囲を明るくする。

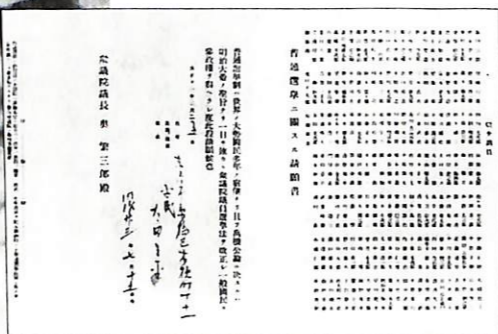
この種の明かりは、人の奥深くにひそむ感覚を、呼び起こすようなところがある。そんなことも感じさせてくれる博物館であった。

●日本のあかり博物館
長野県上高井郡小布施町九七三
☎〇二六二―四七―五六六九
開館時間＝九時半～一七時（冬期＝一六時半）
休館日＝水曜日、年末年始
入館料＝一般三〇〇円

「金をもって人の資格を量るべきではない！」
3府31県で連日のデモ、集会
最高潮！「普選運動」と原内閣の陰謀

大正九年、高額納税者だけに選挙権が与えられる従来の制限選挙から普通選挙への改正を要求する普選運動が、日本列島を席巻した。二月には、連日のように集会やデモが行われ、〝にわか普選論者〟が急増。東京を中心に各都市は、物価高騰で生活苦にあえぐ労働者の、「我々は国家の宝なり」などと叫ぶ光景であふれた。

「奴隷から人間へ！」と〝普選歌〟を歌い叫ぶ

大正九年二月一日、大相撲春場所の土俵がそのまま残る東京・両国国技館には、普通選挙促進のための国民大会（青年改造連盟が主催）に、労働者や学生ら約三万人が駆けつけていた。

▲野党の憲政会と国民党は、大正11年2月の第45議会にも普選法案を提出、請願行動を組織したが、与党・政友会により再び否決される。

▲大正9年1月18日、大阪・中之島公園で普通選挙期成関西労働連盟のデモが行われた。先頭に立つのは、尾崎行雄（左）と今井嘉幸。

「諸君！　時はあたかも二月一日、フランスの二月革命を想起せざるをえなぁい！」

雄弁家として知られる西岡竹次郎（二九）や各労働団体の代表者、各府県の代表者の熱弁に続き、「我ら民衆の威力により今期議会において普選法案の通過を期す」という決議文が可決される。夕方五時からは、詰めかけた人々が一緒になって、大提灯（ちょうちん）行列を開始。大旗や提灯を手に、与謝野晶子（よさのあきこ）（四二）の作った普選歌を歌う人、「奴隷から人間へ！」「我らに選挙権を与えよ！」と叫ぶ人――全員が、日比谷方面へデモ行進していった。

普選運動は、この年一月一九日の私立九大学による無届け演説会で、事実上の火ぶたが切られ、二月になるとほぼ連日、東京を中心に集会やデモが各地で行われて、運動は最高潮に達した。二月一一日には、芝公園や上野公園で二万人規模の集会を開催。憲政会・国民党・無所属組によって、普選法案が第四二議会で上程された一四日には、警視庁の厳戒態勢の中、民衆が議院を包囲する。

「（議院前の民衆は）警官と揉（も）み合っていたが、午後五時半ごろ、ついに森村自動車店の第一警戒線を鬨（とき）の声とともに突破し、その勢いすさまじく、つづいて正門前の第二警戒線をも打ち破って正門の扉まで押し寄せた」（水野石渓『普選運動血涙史』）

当時、警備にあたった警視庁の正力松（しょうりき）太郎刑事課長（三四＝後に読売新聞社社長）は、私服刑事を潜入させて警官と衝突事件を起こさせたため、多くの逮捕者が出た。

ちなみに、大衆集会が開かれたのは↖

▶大正8年3月1日、東京・日比谷公園で行われた普通選挙制度要求集会。普選運動が、大衆的な高揚を見せるきっかけとなった。
「写真通信」（左1点とも）

三府三二県で、計一四四回（開かれなかったのは、北海道、群馬、千葉、神奈川、福井、岐阜、三重、鳥取、島根、徳島、佐賀、長崎、宮崎）。運動の中心となった東京では、野党の立憲国民党・憲政会や、これと提携した政治団体が運動を先導し、関西では労働団体が主力になった。

庶民の政治参加を熱望する声が高まったのは、学生が吉野作造（さくぞう）のデモクラシー思想に惹（ひ）きつけられ、「米騒動」（大正七年）が労働運動の高揚へ昇華した原敬内（たかし）閣の時代だった。当時の選挙法では、有権者は、直接国税一〇円以上の満二五歳以上（大正八年に国税三円以上に改正）の男子。大正九年当時の有権者数は約三〇六万人で、全人口の五・五パーセントにすぎなかったから、庶民にとって選挙など金持ち階級の特権でしかなかった。それが、第一次世界大戦後の狂熱景気による物価高で生活をおびやかされ、労働争議が続出すると、普選を求める声も、枯れ野に火をつけるような勢いで広がっていく。

▶大正九年二月一日の青年改造連盟主催・普選促進大会に際し、連盟は東京市内四〇ヵ所で一〇〇万枚の宣伝ビラを散布した。

普選つぶしの解散
総選挙で与党圧勝

普選運動に参加した野党は、犬養毅（いぬかいつよし）（六四）率いる立憲国民党が、財産資格をなくし、選挙権・被選挙権を満二〇歳に引き下げる大胆な普選案だったのに対し、加藤高明（たかあき）（六〇）が総裁をつとめる憲政会案は、独立の生計者に有権者を限るという保守的なものだった。

「生活問題でも経済問題でも教育問題でも、階級制度の弊（へい）が広がっている。金をもって人の資格を量（はか）るということは、現代に通用すべきではない。この階級制度を打破し明治維新の精神を実現するものこそ、普通選挙である」――普選法案が衆議院に提出された二月一四日、説明にあたった立憲国民党の島田三郎（六七）は、そう演説した。

ところが、対する原敬首相（六四）は、「この普選案は階級制度の打破をめざし、現在の社会の組織に脅威を与える」と、二六日に第四二議会を抜き打ち的に解散。総選挙に踏み切ってしまう。

「原首相は、いずれ普選を実施することになっても、今はまだ時期尚早ととらえていました。実際、彼は前年、普選の先延ばし策として、納税資格を三円に引き下げる大改革を行っています。これは、民衆が政治に影響力を持つ事態、換言すれば天皇制をおびやかす急激な民主化は避けなければと、考えていたからです。そのため、原の暗殺後に普選が実現しますが、権力機構にダメージを与えないブレーキも一緒に仕組まれました」

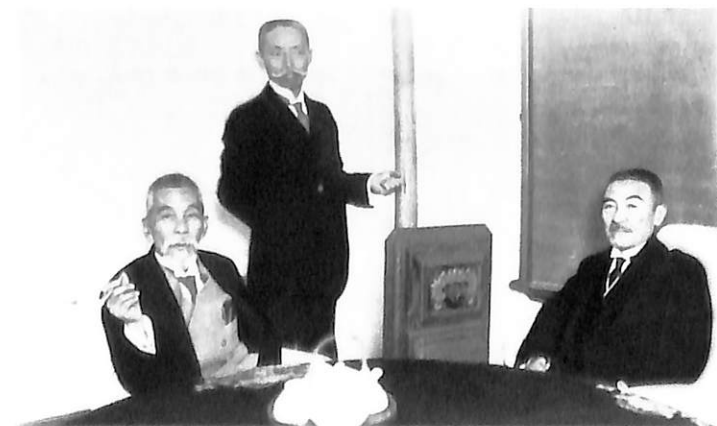
と語るのは、政治評論家の杣正夫（そま）氏である。最終的には、原首相が前年、意図的に選挙制度を大選挙区制から大政党に有利な小選挙区制に変えていたこと、政府の露骨な選挙干渉などが功を奏して、五月一〇日の総選挙で、反普選派の与党・政友会が大勝利をおさめたのだ。

東京市京橋区で立憲国民党から立候補した関直彦（六二）の『七七年の回想』によると、選挙中、「今日でさえ番頭手代どもが、主人の命を聞かざる時節、主人と同権になっては始末に負（お）えない」と、支持を断られることも多かったという。

ただし、東京などの大都市では、普選派の憲政会や立憲国民党が圧倒的勝利をおさめた。納税三円以上の新有権者にねらいを定めた関などは、「（銭湯の）男湯女湯の仕切りをはずし、板の間にむしろを敷いて、仮の会場をしつらえた。翌晩になると、風呂場の演説は古今未曾有（みぞう）だ珍無類だといううわさで、たちまち満員になり、意外の成功を博した」という。

質素な〝銭湯演説〟で江戸っ子の同情を集めた彼は、政友会候補に圧勝する。

とはいえ、与党・政友会二七八、憲政会一一〇、立憲国民党二九、無所属四七と、大勢で普選派が大敗したこの選挙を機に、運動は一気に冷却した。結果的に、普通選挙法（有権者は二五歳以上の男子）の成立は、約五年後の大正一四年三月まで待たなければならなかった。

皮肉にもそれは、反体制運動をおさえるための「治安維持法」との抱き合わせで成立し、大正デモクラシー運動の終焉（しゅうえん）を意味するものともなったのである。

▲普選派代議士として活躍した、左から犬養毅、尾崎行雄、島田三郎。

7~8月

フォト＋日録で再現する366日

「イリュストラシオン」

▲仏軍、ダマスカス占領（7月25日）アラブ独立運動を経て「シリア国王」を宣言したファイサルを認めず、英・伊とサンレモ秘密条約を結んでシリアを統治。

▼島田三郎（67）、内閣弾劾演説（7月27日）憲政会院外団が東京・両国で開いた集会に出席。衆院で3大臣株式瀆職問題をつき、逆に引責処決決議案が可決された「時の人」の登壇に、会場は沸いた。

「写真通信」

▲中国で安直戦争勃発（7月14日）対立する北方軍閥の安徽派と直隷派・奉天派が、ついに激突。写真は勝利をおさめた奉天・直隷首脳。前列中央、張作霖（左）と呉佩孚。

▼新婦人協会が大演説会（7月18日）平塚らいてう（写真右端）、市川房枝（左端）らが、3月に協会を結成。翌日上程予定の治安警察法第5条撤廃に向け気勢をあげた。

▼阪神急行電鉄（現・阪急）、神戸線開通（7月16日）梅田から神戸（上筒井）までが開通し、11月には白木屋梅田店も開業。写真は構内に洋食屋があった神戸駅。

阪急電鉄提供

毎日新聞社

◀富士瓦斯紡績押上工場でスト（7月14日）組合幹部の解雇に対し、友愛会紡織労組員が、初めて団結権の承認を要求してストに突入。しかし会社側が慰労金で切り崩し、26日、ストは解除。

「写真通信」

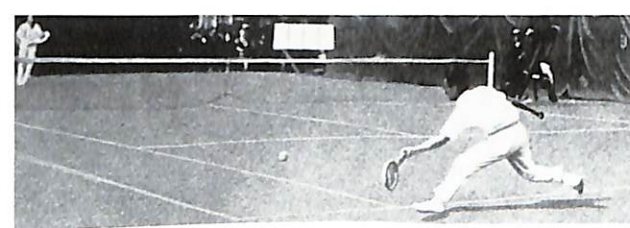
大正9年7月

1（木）●英のパレスチナ委任統治領初代高等弁務官が着任、アラブの抵抗・テロ活動激化。
2（金）●門司防疫班看護婦九人、賃上げ要求でスト。
3（土）●全国初の女性小学校校長、宮崎県で就任。●日本軍、北樺太を保障占領（一個大隊常駐）。
4（日）●内閣弾劾演説会、東京・芝浦埋め立て地で開催。
5（月）●連合国、スパー会議で独賠償金の配分を決定。
6（火）●島根県女子師範生七〇人、教諭転任引きとめを校長に嘆願、拒否され同盟休校。
7（水）●東京帝大、学年開始を九月から四月に変更。
8（木）●永井柳太郎、衆院で「西にレーニン、東に原敬」演説が問題化（14日、五日間の登院停止に）。
9（金）●海員労働会議、海上で働く児童の最低年齢を定める条約採択（大正13年8月7日、公布）。
10（土）●富山県東砺波郡の酒問屋四男が、馴染みの芸妓と津沢町の料理屋で日本刀を使い無理心中。
11（日）●陸軍省、尼港冬営に建築資材輸送、と新聞に。
12（月）●衆議院、憲政会と国民党提出の普選法案否決。
13（火）●川崎駅の京浜電車内で発砲事件、犯人も負傷した二人も逃げるという珍事件に。
14（水）●富士瓦斯紡績押上工場組合員一〇〇〇人、初の団結権承認要求スト（26日、組合敗北）。
15（木）●シベリア派遣軍、極東共和国と停戦議定書。
16（金）●政府、中国の安徽派と直隷派の戦争（14日の安直戦争）に関し内政不干渉を声明。
17（土）●全国の主要職業紹介所で一〇日間に五六〇〇件の求職があった、と新聞に。
18（日）●分離派建築会、東京・白木屋で第一回作品展。
19（月）●第二回コミンテルン世界大会、加盟条件採択。
20（火）●錦絵を学びに米国の女性が来日、と新聞に。
21（水）●文部省、高女生徒定員を増員し入学難に対処。
22（木）●ポーランド、ソビエトに停戦申し入れ。
23（金）●島田三郎、三大臣の瀆職嫌疑質問書を衆院に提出（26日島田引責決議で混乱、27日可決）。
24（土）●政府、儀式欠席の天皇の病状を公表。
25（日）●仏軍、ダマスカス占領（シリア国王国外逃亡）。
26（月）●貸別荘高値で避暑地の鎌倉淋しいと新聞に。
27（火）●文部省、児童の発育を見る標準数値を制定。
28（水）●海軍軍備充実費（八八艦隊完成のための約七億六〇〇〇万円）、追加成立。
29（木）●朝鮮地方町村諮問会（自治制の布石）設置。
30（金）●オリンピックの開会を待つスタジアム、客席一万で理想的な設備、と特派員電。
31（土）●所得税法・酒税法、それぞれ増税で改正公布。

▲神戸海洋気象台、開設（8月26日）東京の中央気象台の事務を分掌。海流・地球磁力などの観測、天気図や船舶の風雨警戒を担当。大正11年設置の無線電信送信機は、気象専用では世界初。茨城県に高層気象台も設置。

「写真通信」

◀谷崎潤一郎（34）処女シナリオ（8月）4月設立の大正活映脚本部顧問となり、「アマチュア倶楽部」を書いた。写真は鎌倉・由比ケ浜での記念撮影。前列右から二人目が『痴人の愛』のモデルとなった義妹、左隣が谷崎。

▶熊谷一弥（29）、日本人初の五輪メダル（8月）アントワープ五輪に出場。テニスの単・複ともに2位で、銀2個を獲得した。翌年には日本が初参加のデ杯戦にも出場した。

西日本新聞社

▶米国で女性に参政権（8月28日）前年、連邦議会で憲法第19修正として可決し、3分の2以上の州の批准を得て発効した。写真は運動を率いた一人、カーペンター夫人。

「写真通信」

◀関西学院優勝（8月30日）第2回全国専門学校野球大会で連覇。関西学院はこの年、中等部が全国中等学校野球でも初優勝し、野球の黄金時代を迎えていた。

▶弁士に試験制度（8月6日）大正6年制定の活動写真興行取締規則で免許制となったが、警視庁は3年目の免許切り替えにあたって「学術」試験を導入した。

「写真タイムス」

CORBIS-BETTMANN／PPS

大正9年8月

1（日）●インドのガンジー、自治獲得の全国遊説開始。
2（月）●銀行合併の手続きを簡略化する銀行条例を改正公布（同日、十五銀行、三行を買収合併）。
3（火）●インドネシア、ジャワのメラピー火山大噴火。
4（水）●米・ロックフェラー研究所に留学の野口英世、エクアドルで黄熱病の治療法発見、と新聞に。
5（木）●内務省、大本教の取締りを全国に指令。
6（金）●都市計画東京地方特別委員会、共同墓地「多磨霊園」の建設を決定。
7（土）●ヒトラー、国家社会主義者集会に出席。
8（日）●東京府社会課の貧困三〇〇〇世帯の調査、一人畳一枚は贅沢な暮らし、と新聞に。
9（月）●政府、徐樹錚ら安福派九人を公使館に収容と北京政府に通告（11月14日、徐脱出で問題化）。
10（火）●連合国、トルコとセーブル講和条約調印。
11（水）●ソビエトとラトビア、リガ講和条約調印。
12（木）●不景気で東京の自由労働者、カムチャツカの漁場や東北の鉄道工事へ出稼ぎ、と新聞に。
13（金）●文部省、神戸高等商船学校設置を公布。
14（土）●第七回オリンピック、ベルギーのアントワープで開幕（庭球の単・複で日本初の銀メダル）。
15（日）●東京瓦斯電気、三分の一の九〇〇人を整理。
16（月）●米・プロ野球初の事故死、投球を頭部へ受けて。
17（火）●台風の高知県宿毛、松田川の氾濫で六二戸流失、翌日確認だけでも死者六九人。
18（水）●足尾銅山の六〇三人、解雇と配転などでスト。
19（木）●若手学者二百余人が欧米留学中、と新聞に。
20（金）●演奏やレコード保護の著作権法を改正公布。●日本軍、ザバイカル州から撤退完了。
21（土）●長坂研介憲兵司令官、今は憲兵が思想・労働問題に深くかかわる時と発言、と新聞に。
22（日）●オーストリアで第一回ザルツブルク音楽祭。
23（月）●大韓民族自決国民会、親日朝鮮人調査や暗殺団援助などの容疑で検挙される。
24（火）●内務省社会局と農商務省労働課設置を公布。
25（水）●東京・日比谷公園に建設のギリシャ式の野外音楽堂の設計図完成、と新聞に。
26（木）●神戸に海洋、筑波に高層の各気象台を設立。
27（金）●外務省情報部、いよいよ活動開始、と新聞に。
28（土）●米、婦人参政権を認める憲法第一九修正可決。
29（日）●東京地下鉄道（現・営団地下鉄）、設立。
30（月）●群馬県伊香保温泉で二五〇戸全焼、死者一人。
31（火）●モリソン未亡人来日、モリソン文庫（現・東洋文庫）を訪問。

「写真通信」

「写真通信」

▲**モルガン銀行で爆弾爆発(9月16日)** 米・ウォール街に君臨する巨大財閥に照準。建物多数が破壊されて死者30人、負傷者100人を数えた。無政府主義者が犯人とされたが、逮捕されず。

◀**全国一斉に鉛筆デー(9月23日)** 東京で開催の第8回世界日曜学校大会を控え、日曜学校普及のため、100万本の鉛筆を全国の街角で販売。2本10銭。写真は、大阪で鉛筆を売る小学生。

▶**2代目市川猿之助「父帰る」初演(10月25日)** 欧米の演劇視察から帰り、歌舞伎の新生面を開くべく、春秋座を主宰。東京・新富座で菊池寛作の現代劇に挑んだ。写真左から二人目。

▶**イタリア労働者が工場占拠闘争(9月1日)** 激しいインフレの中、ミラノのロメーオ金属工場を先駆けに全土に波及。しかし社会党が無力を露呈。グラムシらの共産党が誕生、ファシズムが力を得た。

毎日新聞社

▶**大阪駅構内で火災(9月2日)** 午前3時、荷扱い所引きこみ線に停車中の貨車から出火、石油などの貨物に燃え移り、貨車26両、倉庫6棟などが灰燼に帰した。

「写真通信」

◀**朝鮮人女性教員、日本視察(9月19日)** 朝鮮総督府が主催。各道から選抜された14人が、下関、岡山、神戸を経て大阪へ。中之島中央公会堂で歓迎会が開かれた。

「写真通信」

大正9年9月

1(水) ●読書の季節、タイトルに「文化」のついた本がよく売れる、と新聞に。

2(木) ●第一回東方民族大会、三七民族がロシアのバクーで開催、イスラム教諸民族の独立を決議。

3(金) ●「読売新聞」、工場争議で四ページ減、他社で印刷。

4(土) ●米国・カリフォルニア州、日本人排斥同盟が日本人の帰化反対を決議。

5(日) ●三菱製紙高砂工場、女子工員の勤務を一時間短縮して一日一一時間に。

6(月) ●呉海軍工廠、工場内に託児所を新設と新聞に。

7(火) ●京都府峰山町民、電灯料値上げで三丹電気の取締役宅を破壊、一一九人検挙。

8(水) ●米国、初の米大陸横断航空郵便を開始。

9(木) ●日立鉱山社員一〇〇人、六ヵ月間の待命休職。

10(金) ●閣議、ハバロフスク撤兵を決定(17日、宣言)。

11(土) ●最後の写真結婚花嫁四〇人、米到着と新聞に。

12(日) ●排日運動を阻止できず、在米日本移民が外務省に帰国要求、と新聞に。

13(月) ●国際連盟総会第一回会議代表に石井菊次郎、林権助、目賀田種太郎を任命。

14(火) ●岐阜県、芸娼妓酌婦などに公休日を制定。

15(水) ●文部省、留学の学費増額と期間を二年に短縮する在外研究員規程を公布。

16(木) ●米・ニューヨークのモルガン銀行で爆発事件。

17(金) ●国立栄養研究所設置。翌年四月、事業開始。
●小島祐馬ら支那学社設立、「支那学」創刊。

18(土) ●日本船主同盟会を改組、日本船主協会を設立。

19(日) ●海軍将校の鞄をねらうスパイ出没、と新聞に。

20(月) ●東京帝大、初の公選で古在由直が総長に当選。

21(火) ●日本労働連合会、発会。

22(水) ●外交調査会、米国の排日や連盟への対策決定。

23(木) ●初のエイト滑席艇使用、東大対京大の第一回対抗競漕を滋賀県の瀬田川で開催(東大勝利)。

24(金) ●日露協会が設立の日露協会学校、入学式。

25(土) ●山本一清ら、天文同好会設立(11月、「天界」創刊、後に東亜天文協会に)。

26(日) ●新聞印刷工組合正進会、報知新聞社に八時間制など要求、他の一四社にも波及。

27(月) ●ソビエト・ロシア、中国使節団に中ソ交渉基本事項を提示(第二カラハン宣言)。

28(火) ●全国五二の獄中から囚人の不満の訴えが多く、教務主任会議を開くことに、と新聞に。

29(水) ●米国・ウェスチングハウス社、ラジオを新発売。

30(木) ●建物を取り締まる市街地建築物法が施行。

「写真通信」

◀**伏見宮貞愛、明治神宮の工事視察(10月16日)** 翌月1日の鎮座祭を控え、造営局総裁として最後の検分。写真右から3人目。鎮座祭には「高潮のような拝観者」が押し寄せた。

証言・あの日この日

宮澤賢治(24)

12月2日(木) 〈今度私は国柱会信行部に入会しました。即ち最早私の身命は日蓮上人の御物です。従つて今や私は田中智学先生の御命令の中に丈あるのです。謹んで此事を御知らせ致し恭しくあなたの御帰正を祈り奉ります。あまり突然で一寸びつくりなさつたでせう〉(宮澤賢治『宮澤賢治全集』第13巻)

この年、盛岡高等農林学校研究科を優秀な成績で修了した宮澤賢治は、担当教授から助教授に推薦されるが、それを辞退。以後、定職にはつかず、無為の日々を送っていた。ところがこの日、突然、友人にあてて「国柱会」に入会したことを興奮状態で書き送る。国柱会とは田中智学を指導者とする、日蓮宗の過激な宗教団体で、彼は大正3年から法華経を熱心に読んでいた。そして翌年1月に家出、東京の国柱会本部を訪ねる。 (山崎行太郎)

▼**北里柴三郎・志賀潔、朝鮮・中国にペスト視察(10月13日)** 流行地での研究に師弟の細菌学者が出発。志賀(左)は前日、朝鮮総督府医院長の任を受け、以後昭和6年まで朝鮮にとどまった。

「写真通信」

▲**信濃黎明会発足(10月2日)** 長野県上田の青年たちが、「人類の自己実現」「政党の改造」を掲げ、普選・軍縮運動を展開。写真は翌年9月、招かれて講演した尾崎行雄(前列中)。

「太陽」

▲**中国・間島の日本領事館、襲われる(10月2日)** 朝鮮人が開拓し、ロシアとも接する間島は、朝鮮独立運動の拠点。建物は全焼、死者13人。日本はゲリラ掃討のため間島出兵。

▶**第1回国勢調査実施(10月1日)** 日露戦争や財政難で延期され、ようやく実施。氏名・性別・生年月日などを調査。総人口は7700万人弱だった。写真は徳島市新町宣伝隊。

立木写真舘提供

大正9年10月

1(金) ●第一回国勢調査、台風上陸の中で実施(全人口七六九八万八三七九人)。
●講談社、「婦人くらぶ」創刊。

2(土) ●中国吉林省間島の琿春日本領事館分館、朝鮮人の襲撃で焼失、死者一三人(間島事件)。

3(日) ●友愛会、八周年大会を大阪で開催。

4(月) ●ホテル閉鎖続出の横浜で市営の大ホテル建設運動が活発化、と新聞に。

5(火) ●第八回世界日曜学校大会、東京で開催。
●上田敏訳、詩集『牧羊神』刊行。

6(水) ●東京市道路局長、内相後押しの平岡定太郎に。

7(木) ●臨時閣議、間島出兵を決定(15日、中国に通告、11月まで約一万の兵力投入)。

8(金) ●英のゴルフ大会に初の日本人選手、と新聞に。

9(土) ●青森—函館間の無線電話実験成功、と新聞に。

10(日) ●帝国教育会議で小学校教員の相互保険を提案。

11(月) ●東京市道路評議会、親分制を廃し商人の道路使用料は市が徴収することを決議。

12(火) ●ドイツ独立社会民主党臨時大会、コミンテルン参加をめぐり紛糾、参加派多数が脱党。

13(水) ●第二回帝展、東京・上野竹之台で開幕。

14(木) ●ソビエト・ロシア、フィンランドの独立を承認するドルパート講和条約に調印。

15(金) ●政府、帝国蚕糸への五〇〇〇万円貸付書交付。

16(土) ●英・炭鉱坑夫、政府との賃上げ交渉決裂でストに突入(12月、週二シリング昇給で解決)。

17(日) ●インド共産党、タシケントで結成。

18(月) ●文部省、商業教育調査委員会を設置。

19(火) ●第二回全国小学校女教員大会、開催(~23日)。

20(水) ●全日本鉱夫総連合会、坑夫組合三団体で創立。

21(木) ●旅券、税関手続きおよび通し切符に関する国際会議の決議を採択。

22(金) ●枢密院顧問に珍田捨己ら三人を任命。

23(土) ●外務省、亜細亜局と欧米局の新設を公布。

24(日) ●第一回漕艇協会レガッタで東京帝大が優勝。

25(月) ●二代目市川猿之助、春秋座結成、新富座で初演。

26(火) ●東京・日本橋の住民、道路建設の内務省案を有志の都合で変更したと抗議、と新聞に。

27(水) ●生糸価低落、一俵一五〇〇円台に。

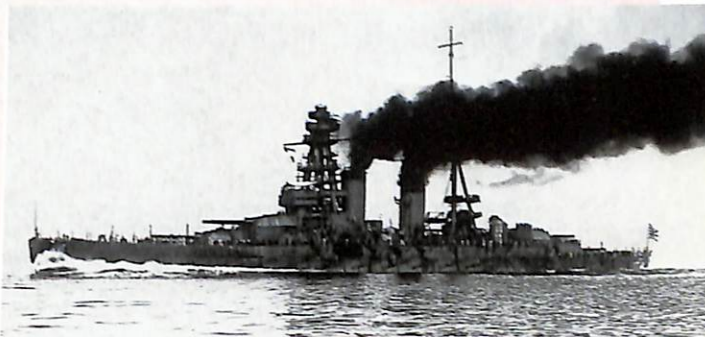
28(木) ●専売局中央研究所、設置。

29(金) ●駐独大使に日置益を任命。

30(土) ●米の秘密組織・KKK、フロリダでデモ行進。

31(日) ●中国の徐世昌、南北和平統一を宣言(孫文・唐紹儀・伍廷芳・唐継堯、連名で不承認通告)。

CORBIS-BETTMANN/PPS

◀米国で世界初のラジオ定時放送開始(11月2日)ピッツバーグにウェスチングハウス社開設のKDKA局が、午後6時から開始。ハーディングが当選をはたす大統領選挙の開票速報を伝えた。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲戦艦「長門」が竣工(11月25日)初めて16インチ砲を搭載、常備排水量3万3800トンの巨艦が、呉海軍工廠で完成。後に、直立している第1煙突を屈曲させた。写真は8月30日、公試中の姿。

「写真通信」

▲洋楽伝来50年記念音楽会(11月20日)東京・上野の東京音楽学校で開催。日本音楽界をリードする山田耕筰(34、写真左)、本居長世(35、右)らが出演。

▶最後のロシア内戦(11月16日)赤軍が、クリミア半島に拠ったウランゲリ将軍(写真)の反革命軍4万を撃破。3年半にわたって続いた内戦は終結した。

「イリュストラシオン」

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲英軍「血の報復」(11月21日)ダブリンでフットボール観客席に無差別射撃、72人が死傷。前日のIRAによる諜報部員処刑の報復だった。これでアイルランド紛争は一層深刻化した。写真は、戒厳下のダブリン。

▶田山花袋(左)・徳田秋声(右)、誕生50年祝賀会(11月23日)文壇全体が発起。昼は東京・有楽座で島崎藤村らによる講演会、夜は築地・精養軒で晩餐会。自然主義文学の両雄の業績をたたえた。

大正9年11月

1(月)●白木屋梅田出張所、大阪・梅田駅に開店。
●明治神宮鎮座祭、群集殺到し死傷三八人。
●東京市道工事で疑獄事件(26日、田尻稲次郎市長辞表提出。東京瓦斯疑獄に発展)。

2(火)●二九代米大統領、共和党のハーディング当選。
●米国・カリフォルニア州で、排日土地法成立。
●米国・ラジオKDKA局、初の定時放送を開始。

3(水)●栃木県佐野高女生、同盟休校(~4日)。

4(木)●犬養毅・尾崎行雄ら、政界革新普選同盟会結成。

5(金)●友愛会、学校形式初の東京労働講習所を設立。
●初のムシ歯デー、日本歯科医師連合会が実施。

6(土)●禁酒法施行中の米国、酒密輸取締り上、外交官特例を廃止との通知、と新聞に。

7(日)●労働者消費組合「共働社」、東京に設立。

8(月)●全国高女校長会、三四二人参加して開催。

9(火)●全国の海員団体を結集させ、海員総同盟が組織されつつある、と新聞に。

10(水)●朝鮮教育令、普通学校の修業年限を六年に延長(12日、日本歴史・地理を教科に加える)。

11(木)●大阪の購買組合「共益社」、事業開始。

12(金)●米国、ヤップ島は日本の委任統治領外との覚書を内田康哉外相に(19日、反駁回答)。

13(土)●振興策のために寛大な航空規制を、と新聞に。

14(日)●郊外居住者がふえ東京・山手線混雑、と新聞に。

15(月)●国際連盟第一回総会、ジュネーブで開催。

16(火)●ウランゲリ将軍敗退、ロシア反革命に終止符。

17(水)●森永製菓、ドライミルクの製造開始。

18(木)●農工貯蓄銀行、取り付け騒ぎのため休業。

19(金)●東京府看護婦会連合会設立、発会式。

20(土)●関西労働組合連合会、労働一四団体で設立。

21(日)●英軍、IRAに報復のためダブリンのフットボール会場で無差別発砲、死傷七二人。

22(月)●米・プロ野球団来日、ドイル監督一行二三人。

23(火)●田山花袋・徳田秋声誕生五〇年祝賀会。

24(水)●大阪の河内紡織板持工場で賃上げ要求スト。

25(木)●戦艦「長門」呉海軍工廠で竣工。

26(金)●労働組合が運動費作りの石鹸売り、と新聞に。

27(土)●新日本音楽大演奏会、本居長世と宮城道雄が東京・有楽座で開催。

28(日)●新潮社、『世界文芸全集』(三二巻)刊行開始。

29(月)●中国湖北省宜昌の日本人家屋が略奪、放火される(第一次宜昌事件)。
●長崎県香焼炭坑坑夫、同僚の復職要求スト。

30(火)●万国郵便条約・小包郵便物交換条約調印。

「写真通信」

「太陽」

▲米国カリフォルニア州で排日土地法成立(11月2日)賛成66万票、反対22万票の大差。日本人の土地所有は完全に封じられた。写真は「ここには日本人は不要」と書かれた看板。

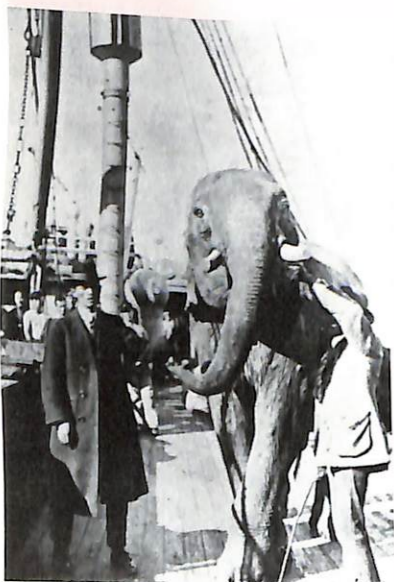
◀九条武子(33)、上京の歓迎会(12月)竹柏会の歌人仲間と日本橋倶楽部で年忘れの宴。7月に上梓した処女歌集『金鈴』には、外遊中の夫を待つ身の孤愁が典雅に詠まれた。

「写真通信」

▲後藤新平(63)、東京市長に(12月18日)道路工事疑獄事件で代議士が逮捕され、田尻市長が引責辞任した後を受けた。満鉄初代総裁、内相などを歴任、辣腕市長の誕生だった。

▼日本社会主義同盟結成(12月9日)堺利彦・大杉栄・小川未明ら30人が発起人になり、社会主義運動・労働組合運動の団結をはかろうとした。写真は、警官に解散させられた翌日の創立大会。

「写真通信」

◀シンガポールからゾウ到着(12月)マレー半島で2歳の頃から王族の寵を受けたという「コロコロン」、15歳。大阪市立動物園が買い受けた。写真は、神戸港に向かう船上で。

「写真通信」

▲大阪で日米野球(12月3日)米国職業野球団一行が、東京から場所を移し鳴尾球場で3日間の熱戦。初日、アメリカン対ナショナル戦の後、明大が挑んだが6対零で敗れた。

「歴史写真」

大正9年12月

1(水)●政府、間島地方に警察分署開設を要求(29日、中国非承認をおして設置に着手)。

2(木)●米大統領、フィリピンに独立をとメッセージ。

3(金)●内務省、社会事業の資料とするため貧困世帯を徹底的に調査、と新聞に。

4(土)●明大学生、学長不信任で授業放棄、大学側は休校で対応(13日、授業開始)。

5(日)●毛布の値段、原料下落と生産過剰で前年の半額、今が買い得、と新聞に。

6(月)●滋賀県の近江兄弟社、メンソレータム発売。

7(火)●ドイツ独立社会民主党左派、共産党と合流。

8(水)●翌春から修身教科書の内容変わる、と新聞に。

9(木)●日本社会主義同盟、堺利彦、山崎今朝弥、大杉栄らが結成を宣言(翌年5月28日解散命令)。

10(金)●ウィルソン米大統領、ノーベル平和賞を受賞。

11(土)●安田善次郎の寄付で設立される東大大講堂、設計中、と新聞に。

12(日)●大学連合学生団の対米問題国民大会、排日土地法に反対し東京・上野公園で開催。

13(月)●国際連盟、国際司法裁判所創設を決定。

14(火)●原首相など政財界巨頭二四人、東京・芳野屋での三浦梧楼主催の忘年会に参加。

15(水)●鉄道事業費などで国債約三〇〇〇万円を発行。

16(木)●農商務省、各種の労働規定を労働法か工場法に統一する方針を審議会で決定。
●交通法規の全国統一、道路取締令公布。

17(金)●国際連盟、ドイツ委任統治だった太平洋諸島の赤道以北を日本の委任統治として認可。

18(土)●後藤新平、東京市長に就任。

19(日)●東京府下の流感死亡一一〇人、と新聞に。

20(月)●海軍省、地震と台風に襲われたヤップ島の状況を発表、食料と建設資材の救助船を派遣。

21(火)●三越技工一二〇人、四条件要求スト(~30日)。

22(水)●浅間山が大噴火、山火事や降灰の被害。

23(木)●英議会、アイルランド自治法を可決。

24(金)●政府、「尼港事件」で中国の陳謝賠償申し出応諾。

25(土)●「帝国大学新聞」(「東大新聞」前身)、創刊。

26(日)●山本鼎・北原白秋ら日本自由教育協会を結成。

27(月)●第四四回通常議会、開会(~翌年3月26日)。

28(火)●日本楽劇協会、東京・帝劇でドビュッシーやワーグナーの作品を山田耕筰指揮で上演。

29(水)●仏社会党分裂、多数派が仏共産党を結成。

30(木)●東京・早稲田の下宿屋街で火災、全焼一三八戸。

31(金)●警視庁、予算二五万円で消防を充実、と新聞に。

職業多市

流行語
新語、「職業婦人」登場！

「職業婦人」。大戦後の不況下、働く女性がふえ、この年には全国タイピスト組合も結成された。そういう時代を背景に、「職業婦人」という新語が使われるようになったが、女性蔑視のニュアンスをこめて使われることが多かった。

「都合解傭」。サラリーマンが会社をクビになること。この年夏頃から、あちこちで首切りが始まった。労働者は団結して抵抗することも可能だが、サラリーマンは「都合により解傭す」というペラペラの手紙が来れば、翌日から出社におよばず。このため、暮れには「都合解傭」が、サラリーマンの恐怖の象徴として使われた。

「生活改善」。学生などが生活態度を改めると約束する時、「生活改善します」と言った。ただし、口先だけの出まかせがほとんど。一月、内務・文部両省の指導で生活改善同盟会が設立され、以後、服装改善、台所改善など「改善」がキーワードになった。これをもじったもの。

◀東洋視察中の米国議員団45人が、8月末、釜山から下関に入り、神戸・京都を経て奈良見物。春日神社を訪れ、鹿と戯れた。

「写真通信」

教育
女性校長は二四歳 宮崎県の大英断

〔宮崎発〕本県教育当局は七月三日、わが国教育史上の一大英断を示した。それは師範学校第一附属小の訓導（教諭）・島原ツル子氏を古城尋常小学校の校長に任命したことで、婦人教師をもって校長に任命したのは、全国において、いまだその例を見ない。

しかもこの栄冠を獲ち得た島原女史は芳紀二四歳、首席訓導を命じられた渡瀬ミツ子氏が二二歳、そして訓導・時任フヂエ氏が二〇歳と、いずれも若き婦人教育家に学校運営をゆだねたもので、男子訓導はわずかに一人だけ。これは、教育方針があまりに女性的にかたよりすぎることを緩和するために任ぜられたものである。同校教育の将来は、全国から刮目して見守られることになるだろう。

（「日州新聞」七月五日）

データ
一年で晴れが二一日 異常気象の関西

この年は全国的に天気が大荒れで、特に関西地方では晴れの日が少なく、暴風の吹き荒れる日が多かった。京阪神のお天気の日数を見ると——。

	晴	曇	暴風
京都	二一	一四六	四七
大阪	二九	一三四	一二三
神戸	二八	一三五	一〇八

（名古屋市会事務局編『総合名古屋市年表、大正・昭和編』）

日本漫画資料館提供

▲「当世百馬鹿」に収録された、吉岡鳥平画「女給に恋した男」。コーヒーを4杯もお代わりして女給の気を引こうとするが、無視されている男。

CM100年 新聞CM「キリンビール」（明治屋）

▲明治屋が総代理店で全国販売。美人画第一人者の多田北鳥を起用した。

資生堂提供

▶「福原資生堂」を「資生堂」に変えたのは前年末。当時の厚紙製のディスプレー。

三面記事
ミルクホール人気の裏事情

東京市中に学生相手の下宿屋が急増し、早稲田大学の近くだけでも五〇〇軒を数えた。それでも学生の増加に追いつかないうえ、折からの物価騰貴とあって、あくどい下宿屋も横行した。

たとえば、食費までは手がまわらなくなったという学生が「間借りだけ」と言うと、ただちに「出て行け」と言う。仕方なしに食事つきにするが、そのためにはどうしてもほかの副食物を注文しなければならぬ。下宿屋側は朝の膳を運んでくると同時に「何かご注文は」と言って、副食物の注文を強制する。このため言いなりになっていると、一ヵ月に四〇円、五〇円もかかることになる。

その結果、最低の朝飯代を払っても朝食は食べず、ミルクホールですませる方が経済的だという学生も多かった。この頃、朝のミルクホールがにぎわったのはそのためであった。

（昭和女子大食物学研究室編『近代日本食物史』）

▲徳川頼貞（右から二人目）主催のベートーヴェン生誕一五〇年祭に向けて、徳川邸に大パイプオルガンが設置された。

「写真通信」

はやり歌

叱られて

作詞　清水かつら
作曲　弘田龍太郎

叱られて
叱られて
あの子は町まで　お使いに
この子は坊やを　ねんねしな
夕べさみしい　村はずれ
こんときつねが　なきゃせぬか

叱られて
叱られて
口には出さねど　眼になみだ
二人のお里は　あの山を
越えてあなたの　花のむら
ほんに花見は　いつのこと

▶この年の「少女号」九月号に掲載された、童謡詩人・清水かつらの名作。前年に「靴が鳴る」、翌年、「雀の学校」を発表。

赤い鳥小鳥

作詞　北原白秋
作曲　成田為三

赤い鳥　小鳥
なぜなぜ赤い
赤い実を食べた

白い鳥　小鳥
なぜなぜ白い
白い実を食べた

青い鳥　小鳥
なぜなぜ青い
青い実を食べた

▲大正7年に鈴木三重吉が創刊した「赤い鳥」は、北原白秋、西條八十らの創作童謡を興隆させた。写真は「赤い鳥」の掲載誌面。

レジャー
浜の子どもの胸が鳴る 日本三大クモ合戦

この頃の子どもの遊びで、最も地域的な特徴を持っていたのは、「ホンチの喧嘩」であろう。房総半島と横浜の海の近くにのみ存在する、胸の高鳴る遊びの王様であった。

「ホンチ」とはネコハエトリ（ハエトリグモの一種）の俗称で、一センチぐらいの小さなクモ。四、五月頃、新芽の出そろったマサキの上に出てくるホンチを捕まえ、マッチ箱の中で戦わせる。七、八秒の勝負だが、長い前脚で挑みかかる姿は精悍で、子どもたちはホンチをエサのハエ、霧を吹いた草と一緒に箱に入れ、いそいそと学校へ持って行った。一〇〇年の歴史を持ち、鹿児島、高知のクモ合戦と合わせて、日本三大クモ合戦のひとつにもあげられていた。

（横浜ホンチ保存会『ほんち』）

世相
送迎バスでデパートめぐり 東京の珍流行

デパートのサービス競争が絶頂になったのは、大正九年頃だった。三越が東京駅と日本橋の本店間に一四人乗りのバス（米国・パッカード式）を走らせ始めると、上野の松坂屋本店も上野駅と万世橋駅で“どうぞ”とやる。ここには、三越も“わが縄張り”とばかり車を出す。また銀座・松坂屋も新橋駅にお迎え車を出し、松屋とサービス・レースを展開。

お客の中には上野駅で松坂屋の車に乗り、松坂屋から万世橋へ、そこで三越の車に乗り換えて三越へ、送り出されて東京駅へ、そこで松屋の車で銀座へ、最後は松坂屋から新橋へと、サービスバスでデパートめぐりをやるものもいた。

（原田伴彦ほか『読める年表』）

「写真通信」

▲7月1日、東京府下の荒川に水泳場が新設された。向井流の伊東師範が指導をし、小学生や付近の工員たちが利用。

この年の初もの
“電車よけ”がねらい 東京・本所に横断歩道

●火災報知器　四月、東京・日本橋の三越前に設置。この年、日本橋界隈に二四基設置される。

●潜水艦　六月、国産初の潜水艦が三菱造船神戸造船所で完成。

●ピノキオ　石田アヤ（文化学院院長）が、童話「ピノキオ」を日本に初めて紹介。

●列車の自動信号機　神戸—明石間に一マイルに一本ずつ、計五九本設置。「危険止まれ」「安全進め」に「注意通過」の三つを指示

▶浦潮（ウラジオストク）尋常高等小学校生二九人が、春休みを利用して母国観光。敦賀から鉄路で上京、東京見物に。

「写真通信」

世界の動き

大リーグの汚点「ブラックソックス事件」

ワールドシリーズでの八百長が明るみに

名選手〝シューレス〟ジョーも永久追放！

▶ベーブ・ルースもそのフォームをまねたという天才打者、ジョー・ジャクソン。13年間の通算打率3割5分6厘は、大リーグ史上第3位。

CULVER PICTURES　デジタルハウス

一九二〇年秋、第一次世界大戦も終わり、野球ブームが盛り上がりを見せるリーグ戦最後の週、アメリカ野球史上最大のスキャンダルがもちあがった。前年の、ワールドシリーズでの八百長が発覚したのだ。裁判では無罪。しかしコミッショナーは、判決を無視して、八百長にかかわった選手の「永久追放」という断固たる処分を宣言した。

◀1919年のシカゴ・ホワイトソックスの先発メンバー。この年のホワイトソックスはスター選手がそろい、〝史上最強〟とまで言われた。

八百長疑惑に包まれたホワイトソックスの八人

「アメリカのプロ野球は草創期から賭博といかに手を切るかが大きな課題でした。スター選手の追放はやりすぎだ、というファンの声もありましたが、あの時はやむをえなかった。長い目で見れば、アメリカ国民も野球という聖域を築くうえでプラスだったと思っているはずです」

「ブラックソックス事件」についてこう語るのは、大リーグ事情に詳しいノンフィクション作家の佐山和夫氏である。

一九二〇年のアメリカンリーグの終盤戦は、クリーブランド・インディアンズ、シカゴ・ホワイトソックス、そしてニューヨーク・ヤンキースが三つどもえの戦いを交える、白熱した試合が続いていた。とりわけ、レッドソックスから移籍したヤンキースのベーブ・ルース（二五）の活躍がすさまじく、打率三割七分六厘、ホームラン五四本、打点一三七を記録し、「ローリング・トゥエンティーズ（激動の二〇年代）」と「ホームラン時代」の幕開きを告げた年となった。

この年の最終試合まで数ゲームを残した九月二九日、野球賭博事件を審理していたイリノイ州クック郡刑事裁判所大陪審は、ホワイトソックスの有力選手を「不法行為を犯した謀議」をくわだてたとして、正式裁判での起訴を答申した。

その後、一〇月二二日には、シカゴ大陪審は一三人の起訴を確定。その中には、前年のペナントレースで二九勝七敗の好成績を残したエディ・シコット（三六）ら投手二人、一塁手のチック・ガンデル（三二）、強打者として人気の高かった左翼手の〝シューレス〟ジョー・ジャクソン（三二）ら八選手が含まれ、ほかの五人は賭博師であった。ホワイトソックスならぬ「ブラックソックス事件」の発覚である。

事件が起きたのは、前年一九一九年のワールドシリーズでのことである。ホワイトソックスの相手は、シンシナティ・レッズで、ペナントレースでも三位がせいぜいと言われたチーム。誰が見てもホワイトソックスの優勢は揺るがなかったが、なんと五勝三敗でレッズが優勝をはたしたのである。

このシリーズ、ホワイトソックスは最初からおかしかった。コントロール抜群のエース・シコットが死球や暴投で点を与えたり、相手投手にまで三塁打を打たれるという乱調ぶり、結局初戦は、九対一でレッズがものにする。そして第八戦、それまでホワイトソックスの三勝四敗と、一見好試合が続き、そこで勝てば最終九戦目にまで持ちこめる状況だったが、ホワイトソックスは五対一〇と大敗した。

八百長の噂が乱れ飛んだ。それに対して、ホワイトソックスのオーナー、コミスキーは、八百長が行われたという証拠をつかんだ人には一万ドルの賞金を与えると対応する。しかし、噂の火元をさがす内密の調査が進められるうちに、両リーグ一八球団の中で最低の給料に甘んじていたホワイトソックスの八人の選手たちが、賭博の黒幕だったアーノルド・ロス

▲ホワイトソックスのエースだったエディ・シコット投手。

▲八百長の首謀者と目された、チック・ガンデル一塁手。

◀好守と強打を誇ったバック・ウィーバー三塁手。

CULVER PICTURES　デジタルハウス（左2点とも）

◀事件を操った大物ギャンブラー、アーノルド・ロススタイン。

NEW YORK DAILY NEWS

外から見たNIPPON

「尼港の虐殺」の〝発端〟をあかした
―ロシア住民の手記

佐伯 修

「三月一一日(ママ)夜の二時、市民は機関銃と銃の轟きに驚かされたが、暁になって見るとそれが日本人によって開始された市街戦であることを知った」

アムール川（黒竜江）が間宮海峡に注ぐ河口の小都市・ニコラエフスク（尼港）は、サケ・マスなどの漁業を主産業とする街で、ロシア人の水産加工業者のもとで働く、中国人、朝鮮人などの労働者も多く、水産物を扱う商人など、少なからぬ日本人も住み、日本領事館もおかれていた。

そんなニコラエフスクが、トリアピチン麾下のパルチザンに占領されたのは、この年二月二九日。当時、市内にいたロシア白軍はほとんど逃走、それを支援する実質兵力三五〇人ほどの日本軍守備隊が、自称四〇〇〇人のパルチザンの中に孤立する形となった。

冒頭に引用したのは、当時、ニコラエフスクにいた「漁業家」ウェーネルマンの手記「尼港の虐殺まで」の一節で、この年八月「東京朝日新聞」に七回に分けて掲載されたもの。ウェーネルマンによると、三月一一日、日本軍守備隊の石田少佐らは、トリアピチンから、武器の全部または「七挺の機関銃と三百挺の銃でもいい」と引き渡しを求められ、翌一二日の午前一一時までの回答を迫られていたという。だが、正確には一二日の午前一時三〇分を期して、日本軍はパルチザンの拠点を襲撃、逆に全滅の運命をたどる。さらにパルチザン側は、日本の民間人に襲いかかった。

「パルチザンは、クルパトフスカヤ街なる島田氏の宅に立籠った日本人を包囲し、砲火を以て鏖殺し、その店舗を倉庫ぐるみ焼棄したが、その中には居留民会、取引所委員会があった。焼かれた家の内には、洋服商の森山氏と医師の佐藤氏とが住んでいた」

蜂起から三日目、日本領事館が炎上する。

「一パルチザンが語る所に拠れば、領事（副領事の誤り）は火事が起ると開かれた窓口に立現れ、外交官として国際法に依り人格の不可侵権を保障されていることを声明したが、パルチザンはこれにお構いなく、直に射殺したということである。僥倖にも難を免れた領事(ママ)のボーイの話に依ると、領事(ママ)は火事が始まると直ぐに自分の妻子を殺し、それから自殺したそうである」

この手記には伝聞も少なくないが、ニコラエフスクの日本人はほぼ全員死亡したため、彼らの最期については不明な点が多い。だが、同市では日本人を上回る数のロシア人らが、パルチザンに殺戮されたのだった。

▲石田虎松副領事（前列左端）一家と日本領事館員たち。

スタインらに、八万ドルという金額で負け試合を約束したという事実が明らかになったのである。

「全員無罪」から一転、永久追放！

翌一九二一年七月、選手八人と賭博師たちの裁判がシカゴ高等裁判所で始まった。しかし、検察側は圧倒的に不利であった。八百長を自供した選手たちの供述書を紛失し、有罪を立証する証拠を提出することができなかったのだ。

八月二日、判決が言い渡された。

「無罪」

八百長選手らに犯罪の事実はないというものだった。法廷に詰めかけた選手の仲間たちからは歓声が飛びかい、無罪となった選手たちの肩をたたき合うなど、まるで祝勝パーティーさながらの様相となった。

首謀者と目された一塁手のチック・ガンデルは、「俺たち正直者の野球選手を罠にかけようたって、そうはいかないんだ。さあ、みんな達者で運をつかめよ」と叫んでいた。そして選手たちは、退廷すると、シカゴのウエストサイドにあるイタリア料理店で夜遅くまで祝杯をあげ大騒ぎをしたのである。

しかし、選手たちには思いがけないことが、待ち受けていた。この事件を機に新たに設けられた、強大な権限を持つコミッショナーに就任したばかりのランディス連邦裁判所判事は、判決が出た翌三日に、すかさず問題の八人の選手たちの「永久追放宣言」を行ったのである。

「裁判での無罪判決にかかわりなく、八百長選手、そしてこれ以後同じたくらみに関係を持った選手は、その瞬間、プロ野球選手としての命をみずから断ったものと思っていただきたい」

ランディスの声明は毅然としたものであった。しかし、ファンのショックはあまりにも大きかった。スポーツ記者だったリング・ラードナーが「シカゴ・ヘラルド・アンド・エグザミナー」（一九二〇年九月三〇日）に書いた「嘘だと言ってよ、ジョー」という言葉は、野球と選手たちへの信頼を失いたくないファンの切ない思いを吐露するものであった。

八百長選手たちの球界復帰の運動も巻き起こった。とりわけ、バック・ウィーバーに関しては、一万二〇〇〇人のシカゴ市民が署名を寄せたが、その願いはかなえられなかった。また、〝シューレス〟ジョーは故郷のグリーンヴィルに帰り、クリーニング店をいとなみながら、夏には地元のセミプロ・チームで野球を続けた。しかし、汚名が晴れることはなく、一九五一年、心臓発作で六三歳の生涯を閉じたのである。

◀初代コミッショナー、ケネソー・ランディス連邦裁判所判事。

CORBIS・BETTMANN PPS

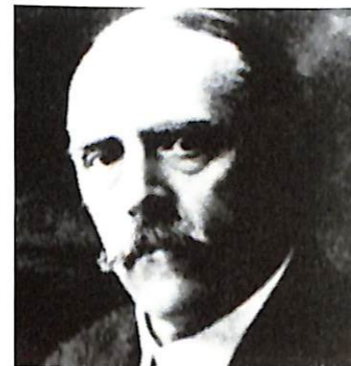
往きて還らぬ

▲1月10日 芳川顕正（77）
政治家。明治15年東京府知事、23年文相となり教育勅語制定を推進。さらに法相、内相もつとめた。伯爵。

▲1月25日 A・モジリアーニ（35）
伊の画家で、エコール・ド・パリを代表する一人。「クッションの裸婦」など、独特の細長い首の女性像で知られる。

▲5月9日 岩野泡鳴（47）
小説家。詩人として活動後、明治42年小説『耽溺』を発表し、自然主義作家の地位を確立。女性問題でも話題に。

▲6月14日 マックス・ウェーバー（56）
独の社会学者。ハイデルベルク大学教授。名著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を残す。

▲6月16日 10代目鴻池善右衛門（78）
大阪の豪商で、嘉永4年（1851）11歳で家督を相続。第十三国立銀行、日本生命設立など大阪財界で活躍した。

▲6月21日 J・コンドル（67）
英の建築家。明治10年工学寮教師として来日。鹿鳴館・ニコライ堂などを設計。日本の近代建築の父と言われる。

▲8月9日 中沢臨川（41）
文芸評論家。東京帝大工科大学卒業。ロシア文学やニーチェなどの紹介で知られる。著書に『自然主義汎論』など。

▲9月2日 山口孤剣（37）
社会主義者で、明治37年東京から下関まで社会主義伝道行商を行い有名に。詩人としても知られた。

▲9月3日 花籠（49）
力士で、荒岩を名乗り、明治38年大関。小柄ながら明治の力士随一の怪力と言われた。42年引退し、年寄花籠を襲名。

毎日新聞社

▲9月20日 尚典（56）
最後の琉球王・尚泰の息子で、貴族院議員。明治31年家督を相続、私財を投じ産業・教育など琉球開発に尽力。

▲9月23日 赤松則良（78）
海軍中将。明治9年横須賀造船所所長となり、日本人による初の軍艦建造を指揮。長女・登志子は森鷗外と結婚。

毎日新聞社

▲10月5日 末松謙澄（65）
政治家。駐英公使館書記を経て、明治23年衆議院議員。逓信相、内相などを歴任。『源氏物語』の英訳も手がけた。

▶10月6日 黒岩涙香（57）
ジャーナリスト。明治二五年「万朝報」創刊、スキャンダル記事などで人気を呼ぶ。探偵小説『鉄仮面』も翻訳。

ミニ事典

1920年のキーワード

分離派建築会

日本の近代建築運動の先駆けを担った理論グループ。東京帝大建築学科の石本喜久治・堀口捨己・滝沢真弓・森田慶一・山田守・矢田茂の六人が、卒業直前の二月一日、学内で習作展を開催したことに始まる。「我々は起つ。過去建築圏より分離し、総の建築をして真に意義あらしめる新建築圏を創造せんがために」を冒頭とする有名な宣言を掲げ、西欧建築様式一辺倒の建築界に抗した。

▶石本喜久治設計の朝日新聞社。曲面の使用、円形窓などに表現主義の手法。

戦後恐慌

大戦景気を背景にした激しい投機の後、三月一五日の株式の大暴落を発端に起こった全国的恐慌状態。四月に増田ビルブローカー銀行破綻、商品相場暴落。五月には貿易商社の茂木商店の倒産から機関銀行の七十四銀行が破綻。七月にかけて全国一六九の銀行が取り付け騒ぎにあい二一行が休業に追いこまれるなど、日本経済は大不況におちいった。

小選挙区制

選挙区の議員定数を一人とする選挙区制度。二大政党制を実現して政局を安定させる反面、多量の死票を生み少数党に不利になる。原敬内閣は五月一〇日の総選挙にあたり、社会主義政党の台頭を阻止するために導入したこの制度を活用、政権党・政友会を大勝させた。大正一四年五月には、護憲三派の加藤高明内閣によって、再び一区を三〜五人とする中選挙区制が復活した。

「西にレーニン、東に原敬」

憲政会の永井柳太郎議員が七月八日に衆議院で述べた演説の一節。「今日の世界においてなお階級専制を主張するもの、西に露国過激派政府のレーニンあり、東にわが原敬総理大臣あり」というもので、普選法案の討議中に突然、衆議院を解散、総選挙を行い、高まりを見せていた普選運動をつぶした原首相に対する精一杯の皮肉だった。一四日、永井は五日間国会出席停止の懲罰を受けた。

▶永井はこの年、衆議院に初当選。太平洋戦争期には翼賛会の常任総務。

カーゾン・ライン

英外相・カーゾンによって七月に提唱されたソビエトとポーランドの国境線。ブグ川にそった白ロシア、ウクライナ、ポーランドの民族的境界を基準とした。しかし翌年のリガ条約では、二〇〇キロも東方に国境線が引かれたため、少数民族問題を招き、ソ連は一九四三年の米・英・ソ三首脳によるテヘラン会議でカーゾン・ラインの復活を求め、一九四五年に現在の国境線が確定した。

ザルツブルク音楽祭

モーツァルトの生地、オーストリアのザルツブルクで毎年開かれる世界的な音楽祭。ホフマンスタール、R・シュトラウスらが創立、八月二二日に初めて開催された。今も毎年の呼び物となっている野外劇「イェーダーマン」は、この音楽祭のためにホフマンスタールが書いた中世に題材をとった宗教劇で、大聖堂前広場や市の中心広場を舞台に利用した。

内務省社会局

従来の救護課を改編・拡充して組織された部局。産業化の進展にともなって山積し始めた社会問題・労働問題を処理するため、八月二四日、内務省官制改正施行により設置された。罹災・窮民救助、職業紹介、授産事業、失業救済、社会教化などを業務とし、大正一一年には内務省外局となって労働行政を重要な柱とした。昭和一三年、衛生行政とともに厚生省に移管された。

東京地下鉄道株式会社

後の帝都高速度交通営団。前年に東京市内外交通調査委員会が発表した計画を実現するために、組織された会社。八月二九日設立。取締役に根津嘉一郎・早川徳次らが就任、第一期工事として、品川から上野を経て浅草雷門にいたる路線が発表されたが、関東大震災で断念。結局、大正一四年に東京復興計画の一部として告示され、昭和二年になってやっと上野—浅草間二・二キロが開通した。

▶レールが敷かれる直前の、昭和二年初め、上野車坂付近の地下鉄工事現場。

正進会争議

新聞印刷工組合・正進会が東京の日刊新聞各社に対し、八時間労働二部制、最低賃金八〇円を要求して起こした労働争議。九月二六日、報知新聞社に要求、以降、一四新聞社に波及した。新聞印刷工は、前年七月下旬にも、東京の全新聞が四日間ストップする未曾有の争議を行ったが惨敗。一〇月に万朝報社が労働者側要求を認める朗報に沸いたものの、今回も正進会員九七人が解雇されるという大きな犠牲を払った。

東京市疑獄事件

道路工事請負業者および東京瓦斯株式会社と東京市当局の間に発覚した汚職事件。市政に強い影響力を持つ政友会代議士・高橋義信が一〇月に逮捕されたのを契機に、一一月一日、不正な工事の原因となっていた市役所と業者の「黒い慣行」が公になり、さらに東京瓦斯の値上げに際しても市会議員が会社側から買収されていたことが明らかになった。両事件は一括起訴され、高橋をはじめ六三人に有罪判決が言い渡された。

道路取締令

従来、道府県令にゆだねていた道路法第四九条の道路または交通に関する取締規則を、国レベルで統一、一二月一六日、内務省令として公布。翌年一月一日施行。左側通行の徹底、曲がり角など交通頻繁な場所の横断についての規定、荷車の輪幅・重量の制限、道路での遊戯、保護者なしの幼児の歩行の禁止、違反者に対する処分などを定めた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀1920

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正
●写真協力
江頭徹 大畑俊男 奥村健太郎 但馬一憲 平山亮 吉川忠久
朝日新聞社 「イリュストラシオン」 Ullstein AP CULVER PICTURES キーストン CORBIS-BETTMANN デジタルハウス 西日本新聞社 NEW YORK DAILY NEWS PPS 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 陸上競技社 WWP
資生堂 Chanel 立木写真館 阪急電鉄 ライオン史料センター
大宅壮一文庫 がす資料館 呉市企画部海事博物館推進室 国立国会図書館 古文書複製社 三康図書館 たばこと塩の博物館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本漫画資料館 パリ市立近代美術館 めがねの博物館

雑誌 23711-10/6
Ⓛ-2001/1/1
T1123711100568

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社